

西國順禮  
道中紀見  
增補  
指南車

別冊  
3  
3617  
70





西國順禮 そごう ねんらい 增補指南車 ぞう ぼく じゆんなんしや

目録

- 一 一服礼おひける納め札並に書附 いっふくらい おひける なくめ ざら ならい かくづき
- 一 日急ん記道中畧繪圖 いちきんき だうちゆう ぎやく えいず
- 一 三十三番の湯温泉 さんじゅうさんばん の とう せんげん
- 一 江戸より東海及び伊勢系官道法結ん附宿次立場又と えどより とうかい 及び いせ けい かん どう ぽう けつん つけ じやくじ たちば いたる
- 一 法方へのころま ほうほうへのころま
- 一 伊勢山田より系からとせ いせ やまのたに より けい から とせ
- 一 一のきり山おまじ浦宿 いちのきり やまのおまじ うち
- 一 道一礼を懸懸那知山八鬼山定 だういちらい を かけ かけ なちやま やま
- 一 世三新本き序新紙付書同敷 よせさん ほんき じゆんしや つけ かく ども ぢ



三十三番谷汲と順道逆道  
多し西名取及の里救宿茶  
屋と板玉境毎段ノ末患ノ記  
一谷汲より来る海道伝説の  
善光寺日光山江戸及結成付

○ 巧書

一順道逆道の道より少の廻り  
及又六里を里もある多し西  
名取と上た筋二ツにたり  
又ハ □ け内ふも書てに家  
又ゆると有る多しを方々  
へけ山から河川又河船渡  
▲ け寺一筋のうへは本宿

して宿茶屋をにらま

▲ けむくく筋のよたあるを回乃

宿く体茶屋をたよりて宿も有

▲ けむくく向きを多し西名所

旧跡又と村名付して宿茶屋

あれども少く不自はなる取と

多る也

● け寺一ハ東海及一里塚

一 伊勢路より大和の國七を  
新より東海及の下段法  
ころれるホムをいへる也  
但しるら谷より地 ぬや  
新川和名の浦大坂の及こ  
希 渡洲こんむうへくが



序

西國紙を志す希方角繪景  
性年野田氏の傳へらまきり  
板紙より紙を世間より  
紙を今又此靈場と云ふ  
わづら前版と云ふたに特筆が  
筆を志すわづらひく高野大師乃  
清も又志す一收上師の月  
かげと書集ゆくと書集と極  
本よりわづらは希方角の  
わづらと紙の筆乃はわづら  
濃紙よりわづら名紙付と  
ぬ後人紙紙せんぬ此小冊

三つ乃巻を被みせが里人  
るをわづらわづらと云ふ  
ふわづらわづらのわづら  
武義書と云ふまきりて  
筆をわづらもまきりて  
らひわづらわづらと云ふ

志ぬ人車をわづらわづら  
増神紙紙もわづら  
道のわづら取合紙紙  
上下わづらわづら  
聊筆紙紙と云ふ

文化三丙寅年五月

南紀城東粉川 九樂齋





明禮畧縁起

神代の由來と云ふこと一を尋ね  
く皮のどんぐん此去よりぐりはじ  
め後ふとくも久くたへてや  
くまよりしるに人皇六十又代の  
帝苑山院と申する御と一  
十七歳を永観二年十月十日に  
足燈ましくあががうなるゆや  
法のしらみ御政候ふくねとん  
すの乃れ志しにりて寛和二  
年六月廿二日夜と受けそだい  
つに思ひ出苑山寺よはき  
あひれおどりとおろして法名

を入覺と申するを後いよく  
仏神といのり流しなる所五疾  
くまのどんぐんの具着とがり  
たまふ御ゆめと昔あんなま  
一とい乃悪人等を地ごとく  
をさげき流し金沈の法を  
一万部をうらふたりの乃たあ  
法中ししたまひたるそのとけし  
しりまはれとてよまやの  
くう上人をれとてい御ふせに右  
の法を經と申んだりとて  
あふ上人のあひたるを  
むの流生やとて成仏とて



さきやうと。あつとあつと大皇孫なる  
と独らばあやだにうんぜ地んの  
買地二十三町ありけし其の西を  
呪礼せし案よ地しての現世に  
地ん後生に果よあつと一先ん  
け言高潔ありて我もとも地  
ごへ地いふと石よ拾文を  
書て下し後上人を在り持より  
津の西中山寺よあつとあつとあり  
身も佛果と後いひあつと絶  
たるみちいふと一してけ買場を  
呪礼したまふとあつとあつと  
とあつとして後あつとあつとあつと  
法皇御感ありてあつとあつとあつと

あひありて佛眼上人をいふも  
にゆきま十若万宗の大君  
石よこれ板あつとあつとあつと  
もあつとあつとあつとあつとあつと  
知ふよあつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつとあつと  
たふごよあつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつとあつと

佛眼上人の寺を河内乃  
玉石川郡羽室村よあり  
法皇の御持物殿の本  
等も此も乃御持物なり  
法が井よりあつとあつとあつと







△ *Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical passage.*

*Handwritten text in a cursive script.*

*Handwritten text in a cursive script.*

△ *Handwritten text in a cursive script.*

*Handwritten text in a cursive script.*

*Handwritten text in a cursive script.*

△ *Handwritten text in a cursive script.*

*Handwritten text in a cursive script.*

*Handwritten text in a cursive script.*

△ *Handwritten text in a cursive script.*

*Handwritten text in a cursive script.*

*Handwritten text in a cursive script.*

△ *Handwritten text in a cursive script.*

*Handwritten text in a cursive script.*

*Handwritten text in a cursive script.*

△ *Handwritten text in a cursive script.*

*Handwritten text in a cursive script.*

*Handwritten text in a cursive script.*

△ *Handwritten text in a cursive script.*

*Handwritten text in a cursive script.*

*Handwritten text in a cursive script.*

△ *Handwritten text in a cursive script.*

*Handwritten text in a cursive script.*

*Handwritten text in a cursive script.*



五

△十七日 入 宿の 宿の 宿の 宿の  
のり 宿の 宿の 宿の 宿の  
か 宿の 宿の 宿の 宿の

△十八日 入 宿の 宿の 宿の 宿の  
のり 宿の 宿の 宿の 宿の  
か 宿の 宿の 宿の 宿の

△十九日 入 宿の 宿の 宿の 宿の  
のり 宿の 宿の 宿の 宿の  
か 宿の 宿の 宿の 宿の

△二十日 入 宿の 宿の 宿の 宿の  
のり 宿の 宿の 宿の 宿の  
か 宿の 宿の 宿の 宿の

△廿一日 入 宿の 宿の 宿の 宿の  
のり 宿の 宿の 宿の 宿の  
か 宿の 宿の 宿の 宿の

△廿二日 入 宿の 宿の 宿の 宿の  
のり 宿の 宿の 宿の 宿の  
か 宿の 宿の 宿の 宿の

△廿三日 入 宿の 宿の 宿の 宿の  
のり 宿の 宿の 宿の 宿の  
か 宿の 宿の 宿の 宿の

△廿四日 入 宿の 宿の 宿の 宿の  
のり 宿の 宿の 宿の 宿の  
か 宿の 宿の 宿の 宿の







卍九だんたごまほりま

そのまほりまは無量なるなりま  
がまほりまはまほりまのまほりま

卍だんあふまほりま

つたまほりまはまほりまのまほりま  
まほりまはまほりまのまほりま

卍一だんあふまほりま

やまほりまはまほりまのまほりま  
まほりまはまほりまのまほりま

卍二だんあふまほりま

あふまほりまはまほりまのまほりま  
まほりまはまほりまのまほりま

卍三だんあふまほりま

まほりまはまほりまのまほりま  
まほりまはまほりまのまほりま

まほりまはまほりまのまほりま

まほりまはまほりまのまほりま

まほりまはまほりまのまほりま

南無大慈大悲

観世音種々重

罪五道消滅自

他平等退身成佛







▲東海及伊勢系宮  
道のり

▲いせ山岡  
法方へ乃  
こはま

▲人足らん（たより）姓古法定  
の通（とと）と志（し）氏（し）中  
苗姓（な）一姓（しん）けし  
乃（の）と（と）べ（べ）ー

▲たせ寺  
さしを  
しり乃  
ゆや山

▲上り下りたて場  
▲本宿 ●一りづか

▲外宮  
▲宮川子

▲徳方（とく）へ（へ）ま（ま）る（る）は  
け合（あ）り（り）て（て）ま（ま）る（る）べ（べ）ー

▲こま（こ）ま（ま）ち（ち）  
▲こま（こ）ま（ま）ち（ち）ら（ら）  
▲大坂

▲江戸日本橋の  
▲志（し）の（の）川（が）へ  
ニリ 日（に）橋（は）七（し）文（ぶん）

▲やま（や）ぎ（ぎ）  
▲この（こ）ま（ま）る（る）  
▲た（た）ま（ま）る（る）

▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ

▲た（た）ま（ま）る（る）  
▲た（た）ま（ま）る（る）

▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ

▲た（た）ま（ま）る（る）  
▲た（た）ま（ま）る（る）

▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ

▲た（た）ま（ま）る（る）  
▲た（た）ま（ま）る（る）

▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ

▲た（た）ま（ま）る（る）  
▲た（た）ま（ま）る（る）

▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ

▲た（た）ま（ま）る（る）  
▲た（た）ま（ま）る（る）

▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ

▲た（た）ま（ま）る（る）  
▲た（た）ま（ま）る（る）

▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ

▲た（た）ま（ま）る（る）  
▲た（た）ま（ま）る（る）

▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ

▲た（た）ま（ま）る（る）  
▲た（た）ま（ま）る（る）

▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ  
▲志（し）の（の）川（が）へ

▲た（た）ま（ま）る（る）  
▲た（た）ま（ま）る（る）



虎の山よりさきの  
ところあり

▲かいこけ

▲大山ふどう屋

程ヶ谷ふどう屋

ニリ九丁又十三又

▲さういふ

▲志るの坂

▲より田橋より右

▲虎の橋より左

▲戸塚ふどう屋

一リ卅丁又十丁又

▲くら宿 ▲けさり

▲ゆが坂 ▲後沢橋

▲虎の橋

▲後沢

▲三ノ木

▲車田

▲四ッ家

▲小石

▲今むら

▲やま

▲半塚

▲七丁

▲けさり

▲くら

▲たて

▲ニリ

▲日津

▲がだけ

▲峠

▲たざら

▲ふら

▲桑

▲赤

▲けさり

▲けさり

▲たざら

▲たざら

▲志

▲上

▲けさり

▲けさり

▲けさり

▲けさり

▲けさり

▲たざら

▲ふら

▲か

▲か

▲けさり

▲けさり

▲たざら



大後おその惣そうざりしへ

四よリ 九く十じゅう文ぶん

▲たてむ 小こつそ

▲まご 立た込ご

▲あまのち立た場ば

▲玉たま府ふ新しん着ちやく

▲梅うめ原はら村むら・小こ中ちゆうののまの

▲まま・▲さうわ

川かわありりるをい

小こ田た原はらののととと総そうへ

四よ八はち下げ 上かみ計けい百ひゃく八はち文ぶん

拾しゅう万まん三さん千せん百ひゃく三さん拾しゅう石いし

城しろ主ぬし大だい久く保ぼ守しゅ屋や

▲風かぜままりり・▲ゆゆりり

今いまのの川かわま

△つちごと

△あ ごと

△さんごの

△みでう

△まつち

△ちし川あり

△さうけ

今いまのの川かわま

△三さん乃のんん葉はや

△かむろ

上かみのの坂さからら左ひだり

△か 孫まご

△か又十下みや

▲まもり又十下▲まごけ

▲おがた又十下▲たりに

▲新しん根ね権けん現げん宮みや

社しゃ以い三さん百ひゃく石いし金きん剛ごう院いん

▲さのの又十下系けい

御ご冥めい刑けい成せい門もん六ろく浪なみ

箱はこ根ねののままししぬぬへ

三さんリリ世せ今いま上かみ言ご世せ八はち文ぶん

▲たてむ いづ

▲甲か石いし坂さか ▲山やま中ちゆう村むら

ふふトとままたたりり

▲ささのの系けい ▲三さんのの系けい

▲洗せんのの系けい ▲的てき神しん前まへ

▲三さん一いつ坂さか系けい天てん

▲高たか野の山やま

女にょ人にん堂どう

女にょ中ちゆうだけだけ号ごう

大だい門もんののままらら坂さか

又また十じゅう下げののるる

かかとといい

孫まごららいい

けけささりりけけ石いし

▲矢や立たのの系けいや

右みぎああままのの

志しままののんん左ひだり

▲たたりり 杉すぎ川がわののままらら坂さか

▲ままのの坂さからら左ひだり

▲志しがが山やま左ひだり



社伝又百石

三橋のぬまづへ

一リ末 二十四文

みせ河<sup>フツク</sup>日村

▲新田町

泥津のしらく

一リ末 二十四文

二万石あり世々

▲ふだん町▲又二回の

たりの中のお茶

▲あけぢの茶や

▲大つり賣りのま

原より系

三リ六丁 六丁又文

おづ味も

▲おづ

八川五子

▲粉川

若山へりり

▲つら

あり村

▲八けんや

▲こが山

▲町の入口

▲みゆり宿や

▲こま

八丁五子

▲森内下▲一本松

▲つげ田新田をり

長き山はの神

▲田家志んでん

うき一皮をくら

長きこりあり

▲大野新田

ふだんの正んこ

▲田の家▲元茶

吉系

ニリ世丁七十四文

▲たてを▲元市場

へふら川をり十六文

▲いさぢら▲東所

▲きま

町の出入

右

▲八けん家

八川五子

▲山づら

▲山づら

▲山づら

▲山づら

▲山づら

▲山づら

▲山づら

▲山づら

▲山づら



浦系がゆい

一リ 式十二文

▲西町 ▲新町は道

とぬくそ塩やく西

めんたらみあつて

中井ふあふ

ニリ十式十七十九文

▲たてこむ川

ち尾村乃花りと

たごの浦右ふ山

▲西からほ

塩くむとらと峠

土き川海 ▲東まど

ゆいよりける人の

いせが

ふせが

とぐら

外官

へ川まら

やうぎ

たまる

あ

へ川まら

かゆ

官のあ

回引

七日市

とせ

系を及中安ぬの

▲真津ふあふ

まきり三下廿三文

▲このふと十二リ

▲津ん寺日村

ち殿三百又十石

▲松系一リ廿下

日め林んあ

▲か

江尻ふあふ

ニリ廿七下又十八文

▲久岐山ハニリ余

ふるん峠

こ川

と

峠ニツ

三ツ葉や

へ川まら

市

つちど

あど

又十下

又十下

へ川まら

か

か



△いまい下△抄いふ

三條の松ありはま

△平河比△中のごう

△小右田△横田村の

いざりこのう山

府中がまうこへ

一りま 比十式又

沸城代

町の右ふどらと

まの宮あり

△みろく△はら

一どんあのかじふ又

△ふごし△下宿

△かきや

△かきや

△かきや

△いせが

△いざり

△あら

△大和路

△町内

△名取付

△外宮

△宮川子

△まら坂

△六けん

△月日

丸子の抄

ニリ 七振又

△西たて場

まうりこ抄 丸りの

はとろふそる

△あらまうらのや峠

上下一リ

△一リ廿五下 三十九又

△小坂の葉や

△あ守 △さぐるま

在る中の城下見守

城主奉回約書

△後校の志まご

丸りにまう

△川ありき

△ひさい

△まがの

△まら松

△うく乃

△増が系

△川

△大川系

△かさね

△川

△かも

△あら

△たせも

△



二リ八丁六十九文

七リ

▲川系町 せと川

▲さくら山

▲せと村 ▲まき山

▲あさひ山

▲東たて場

▲たけ山

▲徳田のかるや

▲八丁

一リ 又十八文

▲たけ山

▲宮のまき ▲白土

▲上のまき

▲大井河

▲つらやま

▲大あいの川 紙人 是又

▲つねお盆

九十又文 是て乃

▲古市

▲大あいの尾 是て乃

▲厚明寺

▲金谷のあつ坂

▲まご盆

一リ廿九丁七十一文

▲ふどおち

▲松屋橋 菊坂

▲まご盆

▲菊川 日村 峠又

▲天王寺

▲桑やありとよの

▲大坂

▲中山 盆 是て乃

▲八けんや

▲日坂のかけは

▲いせより

一リ廿九丁七十一文

▲糸へ

▲古良 ▲ふど

▲本海乃

▲大坂町

▲外宮

▲掛河のまき

▲へん川

二リ十六丁又十八文

▲おんご

又五丁二十七石

▲へ川あり

▲右田 徳中 守

▲まつ坂

▲十九番町 ▲まき

▲くろが

▲あがり ▲まき



袋井のころけ  
一里半 三十五文  
△出にたて場  
▲西ノ坂 ▲三かの  
又付ごい。系ごり  
人下ノ山神てる

▲東坂  
見付の松  
四里八丁百十七文  
天守り川ちるる  
▲大志重の村  
△よこすの口  
▲長りり ▲いけご  
△天守り川

法  
くぼと  
むく  
せき  
坂のき  
とく  
つらふ  
い  
くさ  
大  
系  
ろ  
大坂十り

海らん 二十四文  
大あまは十丁半  
子安村まで渡る  
△かやんむの夜  
本坂との夜  
三河のどゆある  
▲業師新田在  
秋多山の夜あり

▲天神町 ●  
漢松がまの坂  
二里半丁 六十一文  
六万石  
城主井上河内守  
▲七朝下 ▲立場

登夜も  
渡川をり  
ろりり  
○大坂  
さぬき  
おん  
志由ん礼気  
おん志  
おあぢら  
らん  
大坂  
十五  
かん  
下まが死



志の系。あうあ堂。  
舞坂のあうあ、  
一り船さう一スあ

指ニ又  
御番所。

新居のあうあ、  
一り廿六丁三十九文  
▲立場。▲元をす  
とくくこたごんあ

白次郎のあうあ、  
一り十六丁三十三文  
さうさう場さうの川

目。一り山村  
むけあのぼけける

十九

あのみ  
すまの  
ひようご  
すま  
たるこ  
あか  
かこ川  
ごちやく  
ひめド  
あ九十三丁  
おん礼  
廿七だん  
書写と  
くんひ下向  
よまのり  
うまのり  
あうがう

一りの並木松。  
▲東乃たてむ  
二河のうら由、  
一りす 二十六文  
▲西立場。▲いむま

▲新町  
吉田の志ゆ、  
二りす廿八十七文  
七万石

松平修夏守  
大橋百八十間。  
○いせ川さうあ

▲四の森 ▲葉や剛  
▲必府。

あ

あ  
姫路あうあ  
歩門より  
ふた、三りす  
△正座より  
かとああ、  
三り  
△くら乃  
△たじ  
△東 方  
△あがが  
△あうま  
左子の  
はあまうあ



△かけま

けふが坂との出合

宝来寺へハリ

△又井坂

△沙汰のあつ坂へ

十六丁 指合文

△赤坂の下等や

赤坂のふぶあへ

二リ九丁 又十一文

△あつ養寺村

△か祿のて丁

△友河のあつ坂へ

一リ才 三十九文

△たてむ △かんをさる

①より三村

吉田んまの

尻を下合

けふより可

むくりゆ

西坂のり

半写さんへ

まのりなり

押りり

△あそ川毎

中むら

今市

川あり

水山村

△大むら村 △かけのぶ

△尾崎のちりり

三リサ丁 八十六文

六カ石

本田中勢を補

やんどの橋二百八

△大むらぬ 桑屋

△年田村 △たて場

△沈鯉縣のあつり

二リ卅丁 六十文

△たて場 △今押り

△今川 あつり

△げんご村 △たてむ

△あつり

△かどま

うねり

よこを

△谷川毎

うねり

三ツ石三リ

西が線

あが系

ふら坂

△三ツ石

かどり三リ

△川あり毎

△あつり

△本堂



一リす 八十八文

▲かきまきん丸月村

つと出町さんご庄

▲宮のくさるへ

七リの後しあちん

一人前二十又つ

旧日市への糸合と

一人前六十六文

▲みきらふんを

さやまのりごう

▲宮のくさるへ

二リ 四十七文

▲はあまのりあちん

▲あつこの社名ちやの町つご

の丁かーのりあちん

▲斤上より

みおのり

いん産

かぶと

▲川あり海

とく市

▲夏井の

押のく二リ

押いごけ

二布ん雲

▲川あり海

思山より

みごせ

二リ

▲岩塚のまんを

半リ 十式文

▲うららの方へ

方場のめんり

一リを九十二十九文

▲川あり

かあまの素名へり

▲神守のさやへ

一リを九十二十九文

▲けあまのり

右へり上下り

▲佐屋のくさるへ

三リさや川ごり

▲海

あちん

あちん

白石のり

白い村

▲吉波のり

枝中の玉

▲庭のり

さやのり

玉のり

▲子湯の

あまのり

一リを

川あり

▲尾本の

下つへ

二リ



▲素名石 四日市、

三十八丁 一百八丈

十一万石

▲松平下総守 (九)

▲久田 ▲町家川

▲おふけ ▲ま川寺

▲赤石 ▲かき所

▲四日市のかん倉

三丁から三丁七十五丈

川あり橋の前後

宿屋あり

▲たて場 ▲さまの村

▲おひらけ 紀州

四日市のかん倉

川あり

▲ふしと

▲日寺

▲くー田

▲何トの

▲あつた

▲下井

▲下井

▲おちん

▲きん前

七十五丈

▲かき所

▲おひらけ

すべいなるたけりふ

石乃多居五丁

次川大あゝ海

神戸の志あり

一丁市 四丁

一万石

▲本多伴左守

白子より

一丁市 四丁

▲寺家村親善堂

上野の付

二丁市 四丁

▲根上り次は戸橋

あゝなるたけりふ

▲丸龜より

▲さし

▲三がん家

▲けとら

▲あん

百丁

▲たて石あり

▲おちん

▲けとら

百丁

▲たて石あり

▲おちん

百丁

▲あゝなるたけりふ



花りきんぐり

△庄こそはの町はき

津の入口に四天寺

乃まへにきやま

津のふりびく

ニリ 又十五

三拾貳万石

友堂和泉守

町中玉府の川跡

堂あり宿屋あり出に

多しま堂まきや

△高き堂

雲津のまの坂

ニリ 又十五

よおせ村

△金毘羅

町に宿あり

坂のあても

宿屋あり

△道徳寺

△音通寺

弘法大師

跡にんあし

口五十八ヶ所

乃内七十五

此れ新り

△出穀寺

日七十三

川あり宿あり

△月と石より

△六けん

右よりせま

雲坂のせま

口八丁 百又

紀伊屋の津城代

△おのり

△くし田へ川あり

△いさぎへ川あり

小俣の宿

一り年 十六又

へ宮川を流す

△堤せこ田の町

△まんごう寺

日七十三

△弥谷寺

日七十一

けさる

石岩もに

とて佛

とてり

岩あり

方式あり

△宿あり

日七十七

けさる

丸亀







▲外宮の社

天の岩戸上下まきり

内宮 又十丁

二入 浅岩廻り内宮事

外宮 浅岩廻り六丁余

▲内宮の社

天照皇太神宮

八十末社

浅岩山 上下百丁

西宮さんごうてま

下向の人をえの宮を

越えおぼろし出る

志由んまのれ寺の人

を申志後くまを

出て文川上との後

下向を下つゝ  
より何と人  
入るを  
○ 暇礼を  
けの廿丁メ  
① け下の五  
いるが村か  
より村か  
伊写寺ある  
一丁斗り  
西坂り  
志よま  
まきり  
はけ下  
九十三ノ下

いせ山回より八鬼山

徳野那智山 四十里の間

宿は道法一覽

山田 一割

たまる一り

おかげ一り

あを一り

の志一り

かしの一り

こま一り

あじま一り

しま一り

おとし一り

そね一り

あじろ一り



△大まろ二り △まじりすり  
 △ありま二り △あたま二り  
 △まんご二り △みぎだ一り  
 △うぐいす二り △まじりすり  
 △まじりす

▲名所回廊案内

いせ山田より

やまぎ一り

所の出八宮川五

船後一五法之

柳のなる二り

けとろ所敷二り

いづの志を

田丸の二り

▲大坂の

かやぶく

ぎやうら

▲大坂

▲五三

▲五三

▲大坂

▲川中

二カ石 紀州津老

久野丹波守

所中の橋

とぐに

尤呪れ道

かの松なら

原の

村乃

立いの

尤呪れ

大坂

まら

何を

みせ

▲大坂川

▲又だんれ

▲ふら

▲まんぎ

▲堂の

▲呪れ

▲ふる

▲どん

▲はま

▲金剛

▲幸

▲終

▲か

▲四



へ川をめぐらせ坂

▲流系太神宮の社

の志あり阿そへ一リ

たふが坂長者屋敷

乃跡あり

阿そへ一リ

川を大あつりまを

在りくままるるあり

かよのびさたまり

川を大あつりまを

右へまらるるぞり

次文川五石堂

さたのち坂(すり)

川を大あつりまを

またのを寺

▲大たこ

竹のを

▲大野

へきの川を跡

くさくさ

▲急る院

けふより女

かひ天柱の

集り大門へ

のぼるもよ

▲九度山

▲志い心

▲かまや

こはがまゆ一リ

川を大あつりまを

まゆまの志(すり)

川を大あつりまを

▲大津村 ▲梅が谷

坂五跡(すい)

よりて河をうま

ちかし波乃さ

延るるとたの川上

流る大あつりまを

▲二が村

長勝(すり)

阿そへ本の石十

乃る船あれたる

上り坂又十の

▲四寸岩

▲ふが坂

▲日堂

▲女人堂

押の院へ

又十丁

女井のたけ

▲女天(すり)

大りへ出る

るまを(すり)

山の古院を

入る名一(すり)

内(すり)

内(すり)



一石坂△ふるさと村  
のこぎり坂

△大もろん  
ろく海崎  
よりすこし

△どうぜ坂三つら坂  
三浦ふしませり

下りまがし  
△大たき  
より坂きり

馬せのふせり  
川も坂あり

峠より  
△あが岩  
岩武三郎  
坂めぐりて

△どうり村△上さと村  
△中里村川あり

△大また  
かしより

△下里村  
香丸の世に二り

かやごや  
家武三郎

町のちたに河太あは  
ささり瀬多しお

かやごや  
家武三郎

川上へせりむんの村  
ゆけはあり

かやごや  
家武三郎

まごせ坂岩山まで

かやごや  
家武三郎

ちんねの坂く峠又  
柔石あり

おんこ峠  
岩筋のる

尾にふみき三リ  
所の出口に中江川

より坂中に  
△上り

やの糸川も小坂く  
きより上り坂あり

岩武三郎  
あが岩

峠又八鬼山  
日輪寺本まは

今い家はし  
△まのむら

三室荒神山伏す  
又て体も柔石あり

けお大塔のま  
くは乃屋の

くさり三十八丁  
三鬼ふを称二り

とれた清もま  
清世たまふ

ける入り海あり  
のりてより

こしかけ石



為根がむと傍一リ今川あり橋を

と多志郎坂山中又て宿二軒あり

二鬼橋のたな久一リ

町中より川あり

あなをちとたなと一リ

大ぶと坂峠又

西行法師の松あり

大泊の本のたまり

右の方十三丁山の上

今之ん妙人堂田村丸

大泊のたな久一リ

ける坂あり

大泊の本のたまり

今之ん妙人堂田村丸

大泊のたな久一リ

ける坂あり

大泊の本のたまり

今之ん妙人堂田村丸

大泊のたな久一リ

ける坂あり

大泊の本のたまり

川あり橋を

て宿二軒あり

かき野

宿屋あり

けり十津江

子本館とを

民家毎に松あり

乃徳五津江

とて徳殿法師

件の新あり

三位中将

これより公の寺

ありあり

三つら峠

やがら法師乃

とがら坂あり

茶や一軒あり

とこしつり

やがら

西の村

八川あり字

宿を川乃

両方にあり

半宮まで

とがら松あり

これより



これより波を渡る  
是より新宮迄坂道  
東乃海中鬼塚  
之より大岩あり

こそより坂又  
ゆる坂中に  
茶や一軒  
昨までは

西乃びら村より有

茶やろー

権現乃社有二三石と

八丁ふりて

之より大岩有之殿若

▲宿三四軒有

山と云敷十丈の岩山

りりて出茶や

に丸の岩や石燈籠

在りへりまの

いづれも居あり

▲七つろ村

けり三流法師の場

是れも本宮

乃新ありと云ふ

▲やきと谷

乃よりえゆる

▲本宮へ

十丁半新松系乃中

くぐり新五

右の本宮

▲三軒茶屋

左の新宮

けり右より山

此より川一本村

▲本宮

茶屋一本河は三の

所家は茶や

川親志は子志は

むろり茶室の

と云ふと云ふ也

中は宿の五

けり通弓は方あり

極乃法師

阿の海るれは茶屋

りりて新の

日川よあち海静

停せのけり

廻船をうへて南海の

乃人のけり

地屋又地は乃筋

湯の峯、新

阿の山上は狼煙あり

てより



をいして若山に  
おのれは侍なり近

宝曆十三未の年

福州

寛政十二申の年

熊野

熊野浦に漂着と

台礁に達し長崎

送り本玉と海に

あなご新宮ニリ

けりも皮の引くる

るも後る

▲井田村入り口に

▲本宮より

新宮へ

九リ八下れる

川を流る

左右の若木

ふ石が瀬

きぬまは石

志西りく石

夏がせ

ふどろ石

きこ石

布引の瀬

▲新宮村へ川あり

舟りて入るは又

極りてそなるなり

▲屋敷乃下船也と

そふ熊野びくの

舟のしらすんり

川系と高し出店の

所あり

右乃りこの新宮の

社跡なり

所へ入りへ新

大れり

中ノ村

さるすり

ふんまび

親あは

子あは

まふ石

びじん石

かけ石

▲新宮



奉社運玉男乃命

古地系師如來 賜良十二社ハ

天神七代地神又代の命清本地ハ

毘沙門天 如來攝觀音

不動明王 龍樹菩薩

釈迦如來 十一面觀音

文殊菩薩 阿彌陀如來

普賢菩薩 華嚴如來

聖三尊觀 彌勒觀音

新良那知奉宮は三山を三所

指現ししなる清浄無垢の石 用基

以来より二千年余に於て

新良 三つがねハ 寺リ

三万七千石城主紀伊屋清家老也此也

御のちのちもあてて在入を石原三つがね

神乃龍立像持現

堂十間六間大衆のうへに建る

東の方へあすま

除後の社

むろす村 三つがね乃て

天物だらんとする大衆あり

乃小坂あり

三輪堂ありうづみ、寺リ

町の東を流くる河に天社

△さ乃村はさの石を志くを

くらし那智くらとくら其石

出るを又喜原又二位の尼石塔

を文の松

きの福志の 寺リ乃社



大徳寺の社の

めく山

うづひもとのま、又十丁  
小ぶし徳大寺とてうげ

し後の宮が、みら山、又十丁  
けえ三社あり本地のくせ世世  
寺とてうざら寺とてふ

宮のうし強よまやあり

△川せき村 △つせき村むら  
か移移あると出山五△市の村

△二乃せ村

那智山下るれま、那家宿

あり又寺中も宿もすく

本社、十八丁より坂

大門の敷、日本寺、大霊殿新

徳勝三所控理との

有八丁より、滝ありあ、敷出か

あて、屋下乃、雲き地震のじ

三國一の滝ありとて、あぶんで

ぶ、あ堂、くそん、あん堂、三丁より

西國順禮札、三十三所等

一番紀伊國徳野那智山

喜岸渡寺



如急悔、観音、徳野上人  
瀧つ、不より、新出、し、後ひ



御奉る堂、又、同、四面  
辰乙、向、仁、徳、天、皇、は、徳、宇  
法思、法師、あ、ん、ま、う、か

文化二乙丑と、一、ま、で、ふ、正、百、三、十、四、年  
奉、堂、未、申、の、方、に、那、智、山、涉、本、社、は、



事解男の命

御本地札所乃親世書

協文の十二社、天地乃十二神之

御本地を辰己しとよ

△飛龍権現 △河跡池如來

△系師如來 △如念福親書

△若一王子権現

うー宣しきん

△不動明王 △まんごん

△志也か如來 △大恩天

△文珠弁 △系師如來

△雲賢弁 △假約者

△弥勒弁 △美作如來

△河因如來

○紀三井寺、廿八日、道法

△小くら

△うけ川

△本宮

△ゆのま

△ゆかじ

△のま

△ちろも

△ちろも

△ちろも

△ちろも

あち山、小くら、口リ

本堂の右より坂のりそ

又大谷を五坂乃坂井より

妙法山、新及あり廿又下

のふ及次、毎人峠、かつら

△みちの

△きり

△いろ

△小栗原

△たふ

△いせ

△ゆ

△ちろも

△ちろも

△ちろも



乃くぬは乃く又さきかんとゆる  
十又丁斗約てさう切坂いり斗  
△楠くぼ乃きや

小にぐうけき、三リ

四并に川あり大あふなこひ

二丁斗約△きや五四十丁斗約

△沢ぬこ乃きや中り斗約

△山中のきや小ごとり坂

うけ川が本ぐくさり

村中に川あり

け不陽のこ孫、約もちもあ

本堂所家乃きや斗り約

あ、此抄りの法解く約あり

剛中をたはし海をさし川に

門、大馬天役の行者、弘法大師の像

▲御本社修拜冊のき

本地阿弥陀如来

照文天地の十二神本地を

△まんどん △びまやりん

△不動明王 △聖観音

△釈迦如来 △如意輪観音

△普賢 △三尊菩薩

△文殊 △ざざり弁

△十面観音 △美原如来

△阿まご衆 △子守観音

△ねくのめん地を境現

△おとろし乃天神

△白川法皇姑石塔

△つぐもや部の石塔



神楽屋をいんらう湯屋を弁  
ま送り三山乃うら別とけら  
ううおありうが明永八卯年  
うう又焼矣と今再真の所

本宮の湯のこひ、廿五丁

町中より約三町五反上りて

くら後さうげに小堂にあり

小栗とんざんくら後を納く

とらら坂あり川はくえに約

右手に柱あり上人六名乃流

名号とちを付くる岩あり

湯の岩のゆゆと、二リ年  
町の入りに橋を川の中ゆの

くく取を付くるんべい山半牛房

床その外飛葉乃流湯湯こ

流並ハ熟るるゆ葉射のるあり

立櫃を浴室よりつせども熱

湯るまばあしとらうざんにたき

して佐く浴を

は門をド湯のくく取敷まある

ゆくまむる湯気けむりたじ

あつらうなり

浴室ニケ新男女ニケ取一ケ取ハ

とめゆとて諸人をいまだ

精人の室やぬり

湯せんきん帯  
三文で長たり



▲本堂と湯の花自然乃  
美原如東軍旗のどきにて  
二重乃塔あり

湯の峯がゆるへ二り  
赤坂△ふま一姑等や  
湯河△のふ久二り

岩上坂崎とあり等や  
坂△らして等あり  
如ま坂と二つとある坂  
野る此の坂と等やあり

野中△らつて三十丁  
とでもら様野中のほあ  
遊歩△たつと二り十丁  
ちん柏さなとげ等や

大坂崎よりこれ等や  
すり此より十丈崎より△十丈村  
字原より志む、すり

△志む村の入口川あり  
芝よりみまへ二り  
志目見崎等やあり人海

丸り△山志らるが溪元志  
下りりす坂中と等や  
三△測△たるべし一りす

▲中△す△山△に△川△  
川あり▲上まる村▲中丸宮あり

▲下まる村  
回△途△み△る△べし△式△り

三万又石城と紀伊後



海家老安及帯力長

は西民花坊弁登た人志やうは西  
あり弁登ちうら解とるる

剛の古と海ぶようしむるる

岩にらあり▲さく村▲さく村

三造りきりぐに二リ

所の出らん川をみるく味小堂を

ゆとく峠ありて▲東岩代村

名所の松と西岩代にあり

急のき坂 かまの神

切造りいりく中り

まめ坂 ふごうの岐あり

権左んの中後

印南の小麦むら三リ

▲上野村のどぬ村▲さく村の橋

十三塚合さく塚▲志原や村

さくけ柳へ日高川海ありて川

ともさくは造主砂屋司がいます

山伏とさくい造主いりるる

け名所残る園内坊と云ふる

小松系がさく各、二リ

剛中を丸く石段六十二あり

▲道成寺本尊十一西観音

堂又る四面南向あり

二堂の塔を造りて自らん

法をが録の跡と堂乃のまゝあり

むじくけありて女の大蛇と伝へ

の堂とて後龍一白文とて續文に



人殺まふいかさまに  
捕の道成公真行日言の寺を  
ありけり少くは丹生に  
あるおどく山をさく

△とご京村△とご安村

系谷のつせき、二リ

あがせ坂上下又十丁峠に

兼やうりてさうのせ川

井 冥のゆあさ、きり

中あらし川あり

湯 渡のさやむら、一リ

ひろくと云とけつらつとあり

あざと流りて若川村へとが峠  
あやもま附史女入石塔あり

△いしが村 雲麓山得生も○奉定

河津流如朱層徳を子涉能あり

けりの中お娘証の西刑部美用と

そふ之娘を女抱し後よ出候しと

得生と云しゆ寺号と成る

室也海蓬源心文學西行

官原のむら、一リ

けり紀のふらりえ出る

あざと坂より廿又丁乃坂中よ

弘法大師の足とて史に地蔵を

をあり付ありありる白の雲

待て宿六七朝をさうり廿又丁

地蔵あり大師の祀



か蔵谷ふと志る一リ

ふと志る時地蔵堂寺あり

冥山乃石塔は西浄土の堂と

そとに龍系をう西に渡りしま

小江和ふ此ううの玉は海に三

井寺、若山浄域何せも願下

又有り無姓の寺は信がたしと

将母氏と繪ふ写れんをそ

と換ふとそ松の本殿いしと

又志るりの坂中より

谷ん流あのもり松ふと志る

又代かきさきへ一リ寺

ふと志る権現の社あり楠の

り無井の堂あり三帝石塔あり

東の方を愛治る孫もあり

▲名を△ひくと△まはけ正に紀別

権のつづるふうち京村ちりは池

▲紀三井寺町中門前宿家五

二番紀伊海士郡紀三井山

全別堂寺

去云宗寺七軒

寺以世石堂南白

丸る四面堂形仰り

十一面観音法出二又



先仁天皇の御敷石堂飛元まふ

文化二乙丑年延平三指又まふ

け下若山寺格門寺ハリすむら

六リ紀三井寺はみくら村にあり



けし風系より一丈門乃まふ分

ふねこのそ和安此浦一江

△姓脊山兵刃天赤海出せる物屋

△玉井の女の神衣延焼乃社

△神こし此塚△かこ山△を毎らひ

△あしこのらや△かこ舟に有や五

△ふる此橋よりくそてたか合

△東照神天の湯社多礼胃寺

別當云々蓋沙知りま入百衣

△和安此下神よりと後出れを

行用浪出活ししそ和安此里

りしそ此より

△龜地北岩 △観石石吹上松

紀三井寺の若山、二リ

和安此浦の名所、右又左尾

若山の八丁や、一リ

又拾万石御城下、中町筋

出石かけつり宿屋あり

△かごとつと橋の神上下六リ

此と右より西の表の目前文

八けん家 宿あり

川ちびにまりま

たう、海邊しとこゆら

△ゆる村ハ

△きこふ寺

乃出合

△酒板が宿あり

△根来寺ハ言宗



宿を

西方あり

移るる

二リ

△うち回

△くろく

△志ま村

△たりの

△大いん

長回

親善寺

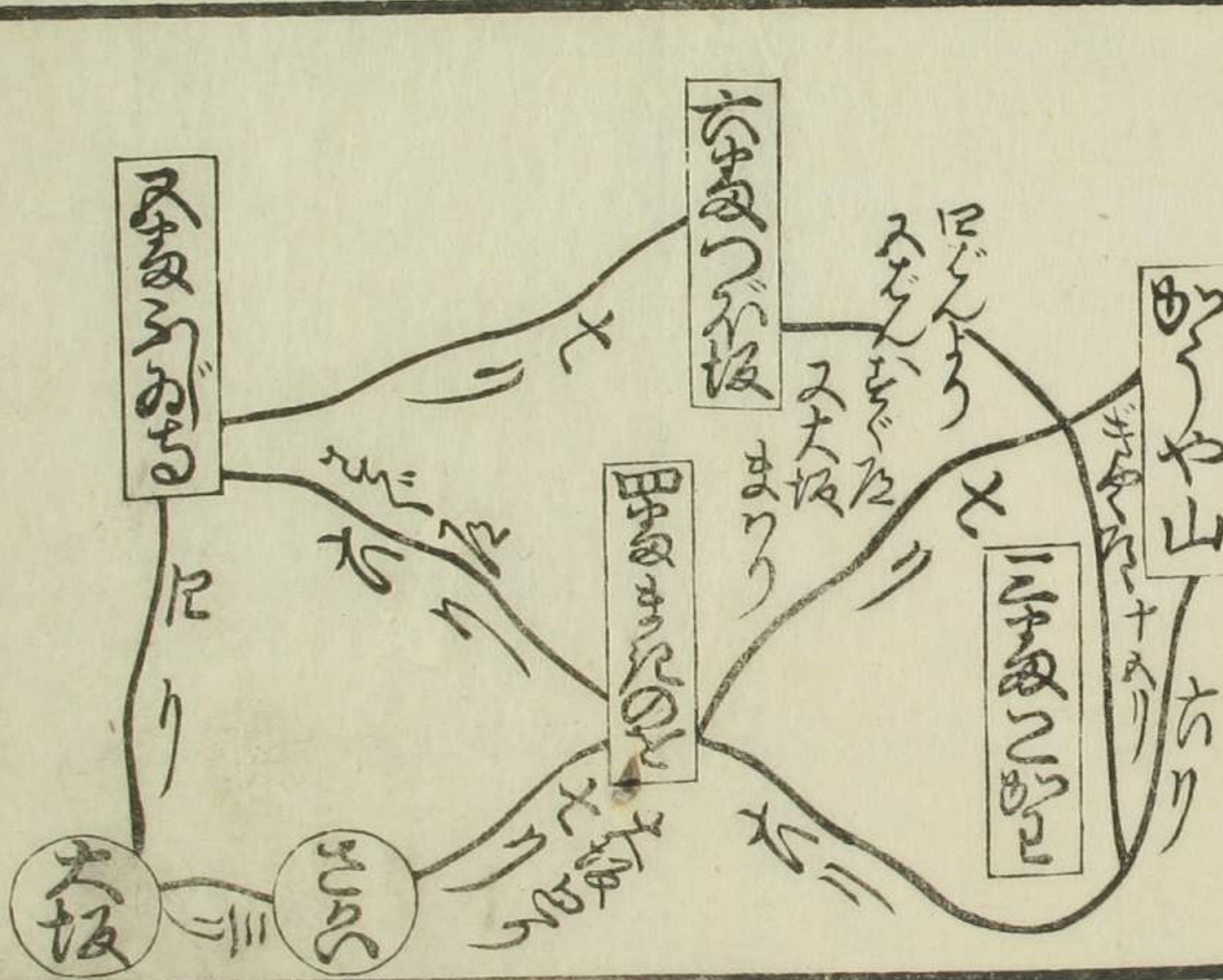
如玄庵

△松河、

かけぬけ

新養の熱心山あり  
 あり西寺院あり  
 △浄新堂真教大師  
 △大徳法院の堂山の座  
 △常光明言堂  
 法園日本日牌日牌  
 毎日去砂加持修り  
 △真の院浄徳下の堂あり  
 法園の石牌あり  
 △大塔又智如来  
 △信法堂の院院出取  
 △本堂二國二きるり  
 不動の正西くぐりて  
 あり新おのり  
 △東坂本松河二り  
 △三谷 日市 せいで  
 ○松河の寺母山に之の  
 松の尾六だんつね板も  
 町中まをあり

○松河の寺母山に之の  
 まりりはだん、新とかくのぞく





大りん乃内なり乃方又  
 海地坊八山山親世書出夜の雨注也  
 本堂親世書書男宛乃法乃  
 法寺はあり物をたりに又前能  
 多法入はる紙日書し書と云  
 らかん堂 何と云

三番目玉那賀那補陀洛山

松川寺

天台宗古二十一  
 寺以百又十石  
 堂十又万四西南向  
 子子服分ん書  
 則限書男宛の地



所中もどれりり及たあり

室龜元年光仁帝の所建立より  
 文化二丑年と千二十六午ぬ  
 九重の御守由山より出

千夜堂▲六角堂孫之丹生の神

● 粉川の巨ん核の尾へ

すぐる六り上の辰ふ書尾

● 寺の廻り十三り中の辰ふ書尾

● 京大坂の運赤八下の辰ふ書尾

● 巨ん

○ 寺の尾十三り

● 京大坂

● 粉川の

粉川の廻り十三り

の人を

● 名を

町中まお屋

粉川の

● 寺

寺の尾十三り

右







八丁よりて

▲夫々の墓や宿もあ  
け取られくの院と上り坂  
百丁の園と下毎々の石を  
立石にりり

石 天乃志そん院、百丁  
石も丁石あり

上り坂より弘法大師の

△けさうけ石△押あけ石  
△かどいし△おんえ石

下る訓大りん一近し

け下る女人堂、紗及あり

大門 東西十号南北三間

高野山 金剛寺  
け下る奉納第一の善徳石

大なり

又十丁

け下る八

分の取こ

作ら

三石塚

岨づゑ

坂上下

山の中程

寺院  
奉堂あり

寺者あり

け下る十

あすの

三國一乃

武万子石

れくの院へ又十丁

▲中門より

中門より

金堂

六角堂

三社

丹生

西塔

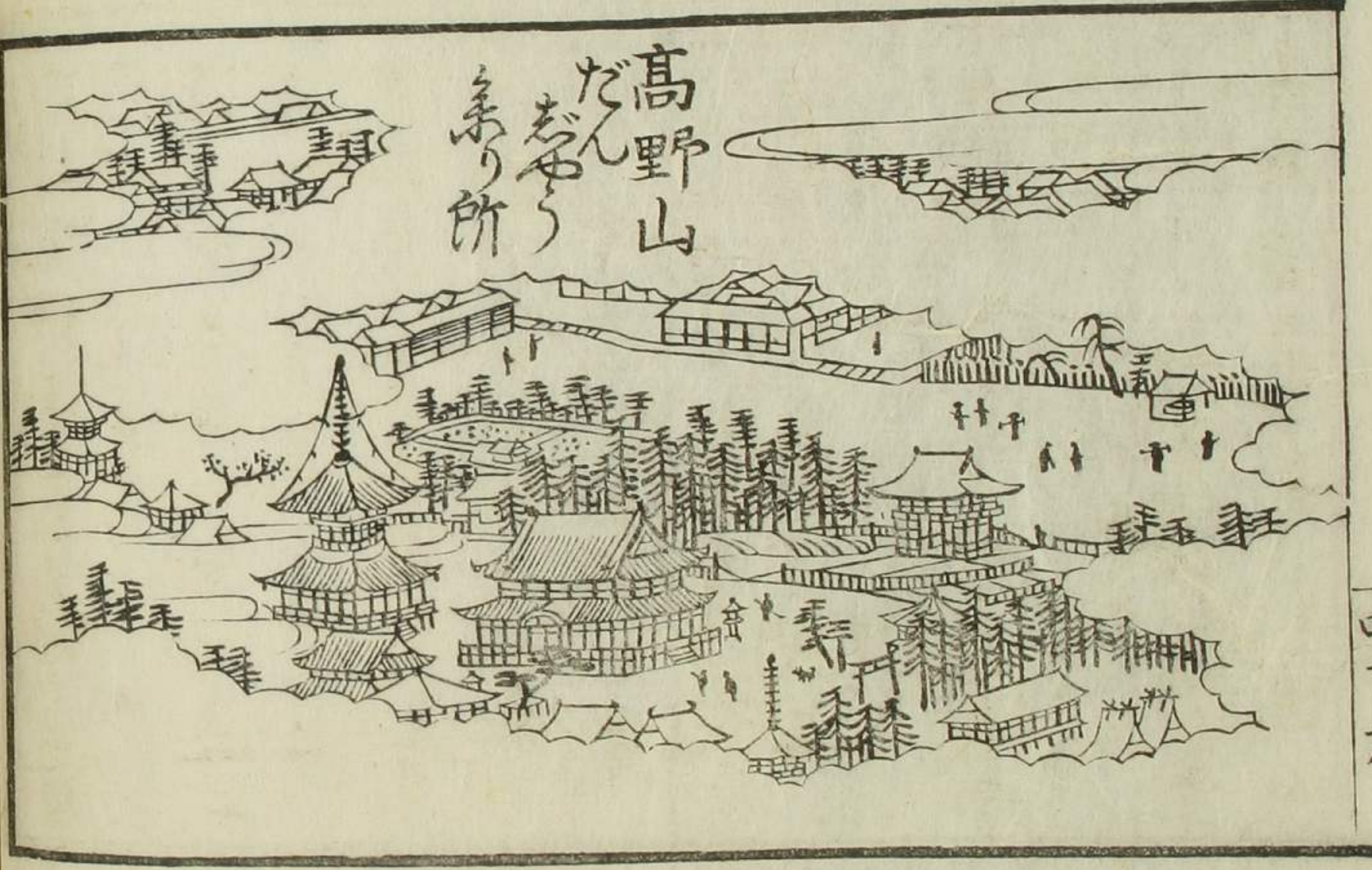
今より

新浄堂

孔雀堂

准胝堂



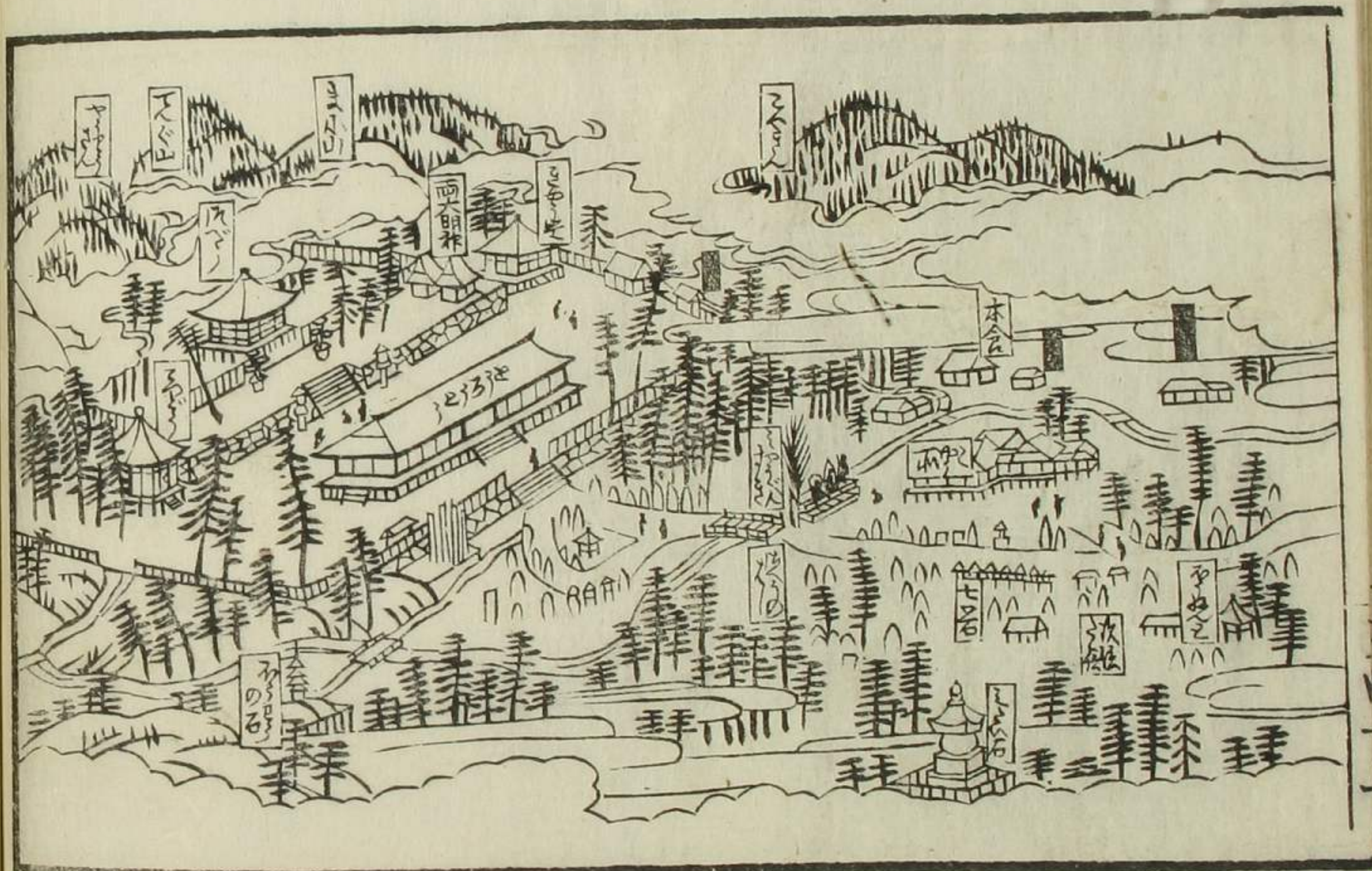


△ 漸新堂 弘法大師自化の正像  
 前より三枯の堂あり  
 △ 灌頂堂 西東の漫陀羅  
 △ 大塔 胎藏界の大日如来  
 年お國法盛公自毫の大まへら  
 △ 新学堂 あへせん明王  
 △ 舎堂 丈六阿弥陀如来  
 △ 三すへ堂 大日如来  
 △ 東塔 菩提漫陀羅  
 けりよりおしりりて  
 △ 真山寺 新入流のから寺也  
 △ 東照堂 乃内神廟  
 △ 善嚴寺 学長流のから寺  
 △ 善慈堂 ぬりて  
 △ 後りて









△曾我十郎五郎乃石塔  
 △あふもり公△熊谷次郎  
 △金川とさふら細き橋  
 △多田満仲公又守人石  
 中乃はしれ渡りぢせん  
 △権り様ハ源天々乃伊摺  
 △法然上人自菟の送彼石  
 小堂の内ふあり  
 △佐茂次信日忠信の石  
 △大納言乃又橋石  
 臺座式同四方らう道より  
 少一上るまをけら一處の石  
 △本河跡七奉石



△本 食堂

△灌摩堂 不動の大師の祀

△求聞持堂 出くろ尾善薩

△御供下 兵方天 大恩天

△御癒橋 け橋乃板敷世七敷

三十七名の梵字板のうらに

斗たろゆへ一度け橋渡る人

又逢罪れ滅むるゝと云あり

△龍鏡堂 万燈の常燈明

けらけうし海に

△青堂 龍を松下河内守

御癒所 永和二年三月廿一日

弘法大師乃御入夏の下

文化元年迄九百七拾二年

△經堂 石回治部少輔光成の建

け下の大塚山上 天の川 紙のり

摩尼村、又拾丁

●和名浦、十二リ粉川、六リ

大門、出くろ坂、又十丁

●う後の本宮、八十八リ

大たき村、又十丁

●明きの及き、京大坂いせみ

大和路、ハ紙谷の宿、又十丁

け外、三ヶ所乃出くろ

又拾丁の同人、又

下向の町家の中、程より有

△大徳院 佛代く乃佛宿坊

和名



東照宮御神癒

△内の不動堂 △二重の塔  
心ま乃池

女人堂の口より、又十丁

大門をけ下り、まより下向百丁

堂乃、その網の地、大仏也

△卯の不動日坂、下り斗り

曰す、忠とらふ、下け山の切取

紙谷を志せん院、式りす

所の出より、右系大坂、せり

九り、おんまゐる

△志のて村川、まゐる、此本所

△九度山、け下り、志回安房守

園、居の、下寺あり、石塔あり

善導院、大い、て、式り

け、下、弘法大師の、清母君みろく

お、さ、ら、と、い、これ、孫、女、清、藤、雨、の

寺、三、重、の、塔、あり

町中より、右へ、紀の川を、銚の

多波、一、八、安、永、六、酉、の、年、

武州の、沙門、寧ろ、法、方、勤、化

し、る、成、務、に

△大野村より、上り坂、△竹の尾

大い、と、ま、の、尾、へ、式、り

跡あり、紀、伊、づ、と、河、内、堤

○日審和泉園泉那

松の尾山、龍、福、寺

十一面、勤、善、法、海、上人の、能、之





天台宗七十寺  
 堂又同七間南向  
 行海上人の遺徳  
 弘法大師判教此所  
 子六十又年にも  
 此寺は山より

又むんずらあさへ  
 松の尾より  
 茶室の奉堂の  
 今ん大門のつら  
 大井山金剛寺  
 本寺は六六日集

○大坂まより  
 又むん十三里  
 松の尾か  
 よこ山又十丁  
 横山か  
 山岡三三三  
 村中に川あり  
 又むん三三  
 六ヶど川  
 うのがけら

約基糸の他  
 美り前多一

山岡より  
 さくの一三半

あまの  
 とんご掛三三

△大島村旧跡  
 △うらんお舎村

△あおら村  
 △たて川村

さくの一三  
 大坂三三

富田林か  
 ぶにお寺ニリ

けお掛の泉境  
 所の同南お世丁

又ま河内  
 ぬにお寺

天寺念いす徳  
 天神命必寺

及と次乃  
 及十二丁又

所の出口大新橋を  
 △安三町

①志うしより  
 又るる

あんとやれ



▲佐吉四社明神社願式千石

一ノ宮 伊勢古神宮

二ノ宮 宇佐右の神

三ノ宮 佐吉右の神

四ノ宮 神良皇后

享和二年戊戌十月宮殿のまゝに

天災火焼失して西ノ門より橋跡

をいづる水乃門、出て

▲神良古大海神又大力靈

けとくろくと後金風系より

▲新家の夢や ▲天下業を

▲今定村の大坂入りはるが町

日本むし一五丁と

大坂三筋合ふるまゝに名なる橋跡

宇籠橋通り長服店街城

▲天満天神 小湊米市場

▲御霊ノ社 ▲北ノ街堂南ノ街堂

▲座席の社 箱倉官 ▲河跡池

及長堀芝居長町宿屋

大坂かてんまゝ寺に一り

所寺はきりる ▲高津の社

▲生玉の神 ▲志倉ノまん法水

天正寺のひらけく 一り

荒陵山 街朱印 千六百石

聖徳太子用基弘法大師の地

七堂がらん金堂 講堂又を

乃塔意佛堂 西門は石の多居

あり額を弘法大師の巻く







上のちまふ たま後一りま

け取聖徳太子乃法苑所

△弘法大師堂△念仏堂信三堂

△ちまふ十六身御新堂△三尊の塔

石だんよりてサヌカの法新堂

御殿はうし後又聖徳太子

御殿三尊一殿乃岩あるま

け下ふ△かすがとまふ出たたり

△山田村より十丁余り約々

石地あり右と竹の内またを

岩屋ごとくたまふのらるる所の

より前右乃方に岩屋あり

石光寺に中お姫の法新蓮の  
まんだら紙多ふ所の系うけ様  
同澤あり井戸五個一席りる

當麻寺よこ門より入る宿と

押りて門あり△中堂△金堂

△本堂出六跡勅弁

△中お姫廿九才の法新蓮の系

乃まんだらを織あふ所あり

△紫雲庵と清てんまのの取

△塔の堂ニヶ所あり△鼻乃院

念佛堂三尊乃に何ごとく兼

惠心傍都乃法苑たり

法慈上人鏡の法苑



富麻が志ん志んへきり  
押りて門をよしれたる乃  
門を志ん志ん道

新庄の法新へきり

新所へきり

法新の志ん志んニリ

西家の志ん志ん

菅系志ん志ん

△志ん志ん△志ん志ん

志ん志ん志ん志ん

志ん志ん志ん志ん

志ん志ん志ん志ん

志ん志ん志ん志ん

志ん志ん志ん志ん

志ん志ん志ん志ん

志ん志ん志ん志ん

志ん志ん志ん志ん

志ん志ん志ん志ん

志ん志ん志ん志ん

志ん志ん志ん志ん



六番大和志ん志ん市郡  
壺坂山南法苑寺

志ん志ん志ん志ん

志ん志ん志ん志ん

志ん志ん志ん志ん

志ん志ん志ん志ん

志ん志ん志ん志ん







寺りおきで  
ありざり

七番 (て)

大和国高市郡

東光山

同寺



去言宗

寺一軒

寺以二十石

今に在りの谷さへ  
解ふ事なくいと厭  
千かとらふは西走

△此乃冠表

宿多したくのて

いへざんまで六十

たふのて候ハハ

けあより約送あり

吉野山金峯山寺

御朱印千石寺百軒余

大門を北向

△本堂八南向

寺を史六流王権祝

三石中しきん

堂又りん

曰りん南向

如意橋

親世壽

弘法大師

三圓乃土

作せたり

本堂あり

美濃橋正

用基あり

天智天皇

御くんとあり

千石四拾二奉

あり

△安徳寺ハ

後醍醐後村上三帝の

御居乃跡

△吉水院ハ後醍醐帝の

白居之塔宮源氏後

皇孫乃跡

△此乃最久の寺

△掃部神

△日ノ尾

△金精内神

けぬけの塔ありて

ありて

△聖徳堂

ありて西の塔あり



上坂  
二十丁

●大塚山上下十四丁

武蔵

の程の通りあり

の程

かこやち一丁

寺

たぐら村

式

上市より

す

たぐの程、三丁

り

町中、坂上、株ふ

あり

ついで堂あり

坂中

たきのとこ、ふゆの

より

淡山、武の塚より

たり

ねり寺へ、二十丁

橋井

新三若寺、四十丁

あり

本社、大徳冠、徳豆、乃

てより

御社十三巻の橋の

村の

御建、宗、わたり

町中

法堂、地、か

あり

おろちへ、なり、坂、や

右

な、坂、中、そ、う、上、の

おん

堀、あり、も、て、西、村

寺

忌、の、町、中、こ、ろ、あり、お、ま

あり

け、町、あり、も、り、て、ま、あ

あり

の、ま、り、て、下、り、ま、り

あり

め、十、六、丁、メ

あり

慈恩寺より、ま、り

あり

し、せ、寺、の、う、ち、に、り、り、下、り

あり

し、せ、町、の、へ、り、に、名、居、あり

あり

影、ハ、弘、法、大、師、の、御、堂、也



乃ちちを約たり

二重乃塔本堂まへに塔あり

八音同圓燃上那

豊山長谷寺

言云宗新の

本山崇林あり

坊舎あり

御朱印千石

堂七間口面南向



二丈八尺の十二面観音堂日乃御地

聖武帝の御地味乃上人開基

御基がさりの供養あり

本堂の上乃檀又多あり

長谷よりちかんと一リ

長谷寺のみりへ 寺り

海よりちかんと寺り

約てうらた寺あり

三輪大の神社あり

玉垣三ツの寺あり

山を地がむ也

山を地がむ也

又ニリ約て丹波市あり

三輪より

丹波市あり

けりありあり

すじよりあり

初めありあり

入里乃あり

たありあり

川合

法隆寺



完師大の神  
大和の神

七堂のらん  
多し可多し

おまのくに  
おまのくに

聖徳太子建  
立の徳也

内山永久寺

たけとの社、  
十二丁乃上下

名を村

つと村

法隆寺より  
四つ山、ニリ

やうの村

丹波市

おつげ

おびとけ、式り

布部の社

那山より  
多し可多し

いそのの

兼師寺

有原寺

拓提寺

帯解より

阿まが辻

るらへ一り

あから

奈良けととゆまむかし乃  
みやこおれがまう新田さま  
くも物下多くして所をう

今まに

元真寺又堂乃塔あり

寺をら

さ家沢の池う杯免の宮

● 石うまうちへあうし人ま  
けとくらく成るなり

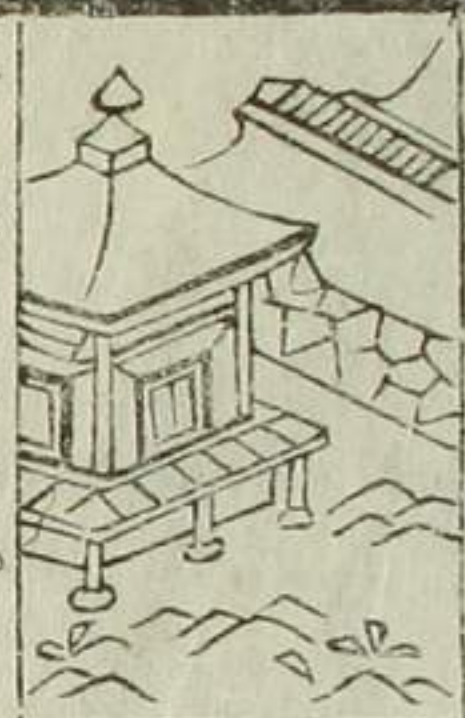
さる沢の池のうへ真後寺南大  
りんの池にけきして毎年二月  
新の徳修の取

真後寺東乃りんよりつ家

けとごう四丁四方乃うちらに



九番因方り南多入堂



法宗為夢乃所  
堂八角ありがうなり  
再建の堂寛政の  
己の奉入佛を  
九百九拾年とあり

不宣院素三門八階乃觀音

和記三年及平淡海公建立

弘仁四年及原冬嗣公再建

▲中金堂 兼師如來

▲東金堂 積迦如來

▲水象堂 弥勒菩薩

▲彌堂 阿彌如來

▲又堂ノ塔 ▲三堂ノ塔

徳堂悉く前年焼失して

今より少し餘り北西の堂斗再建

一系院御門主御志約千五百石

大系院の官御志約八百石

水の門へ出て右約大寺居有

け所野山も無様多し

表目四社御社

壹の御社 三ヶいづちの寺

二の御社 いさぬし乃寺

三の御社 阿まのこや社の寺

四の御社 玉免抄ふがこ

社於六千七百拾石

社常より在りへ約

表目山 若宮 八まん宮

あ州山 清ら山をもとふ

ふりて通るて

六十一



東大寺大佛殿 彫り三千二百石  
本高十六丈の釈迦如来

堂東西八十間 四方一丈の  
長サ一丈六尺 圓の懸三尺九寸

口八尺七寸 耳八尺八寸  
輪障高サ一丈三尺六寸

厚サ八寸 彫り式丈七尺寸  
△二月堂 本尊 釈世尊

毎年二月二十七日乃名法行  
ありて年々出る

若狭の井戸高六丈のまへ  
けより古門と云ふ所出る

系法門と云ふてんぐ所宿や  
ありてあり

△般若寺 月坂から坂  
と云ふ所つゞきあり

奈良良のきびつへ 一リ寺  
本津のひらとへ 一リ

山塔 へ川あり 舟 八丈八尺  
け川と云ふあり

くがらハ三リ約て

△天神の裏の分とニリ寺  
△八丈と云ふと一リ寺

へ川ありと云ふ  
△と云ふよりうら 一リ寺

帆立蓮赤のふ井と云ふと云ふは  
平尾の 玉あり 一リ

鳥居村の山と云ふ倉のや



西條の所

玉ありのまがつけへ一りま  
那の入りは右の方い井いまれ  
山吹の名正井いまの太長い飯い孫  
長比いかういちへニリ  
△くらむ村大かめいまや  
△おづら新田いまを京い伏いえ  
右の所いらるる名物いまい後い

宇治の所いらるる方小門

より入いりて

△平等院い本いまいりいまい如い來  
室物いねいまいにいまいまいをいれい政  
又いまいりい持い物いちいりいけい寺いに  
風風いのい吹いちいりい堂いあり

表門いへいまい右いまいれい改い付い此いのい所  
扇い乃い芝い駒いついるいまい乃い表い

宇治いのいまいらいるいまいり

ういちいのいまいらいるいまいりいまいりい

持いついるいまいりいまいらいるい

△惠心院 △真い正い寺

かけぬけいるいまいりい

持いついるいまいりいまいらいるいまいりい

持いついるいまいりいまいらいるいまいりい

宿い少いりいりい

十番山城い宇治い郡

妙い賢い山い三い室い戸い寺

天い名い宗い六い寺い堂い分い四い面い南い向い  
今いハい後い堂いまいらいるいまいりい





隆徳のあまのり建立  
當寺の東岩瀬と  
らふ出帆の本尊  
九百二十一年

三むらが上たいでへ三リ

△黄嶺山 善後寺

用山強元禪師塔院

三十新余寺依は百石

法堂より西多し

門前少し新て夜新たいで

女人堂△すも山へ三リの男ハ

らから川地又山ををよこて

岩間寺少く出合ふり

○又男女も同たて下のたいでと新  
ても近年の妙女人堂建立ありて  
新設のたにリ余の岩男寺と出合

△六ぢぞう △おぐるん

△いちごん寺 観音 △たいで村

△下の礎礎寺と寺寺七十軒

三寺院持の不知り日ふ石

本堂又寺の塔五新女人堂

より男女より寺男の裏つと寺

坂早下斗坂急なばは寺やわし

條より少りて花の△善統権現の

新殿少し新て花の堂の光年

焼くる花あり今めりよして

善後寺ふましまし



拾一青同國同郡

源雪山  
上ノ院 碓氷寺



高玄宗山正七十名  
元の堂は九方四面  
準勝観音堂八尺

三目八符聖宝塔正乃法地  
宗山嶽乃泰徳子七十二年成

△又大方堂△如慈輪堂

△理元大師乃堂

○いづはちへ七十丁

山より廿二丁より あま

西宮元村宿一臥乃

西宮寺ノ宮乃歩小川のり

嶽て廿丁坂上りて峠あり  
あり廿丁より東宮元村八丁  
岩間寺堂乃脇又宿一軒あり  
女中八奉堂乃まゝに由て

拾二妻道江國勢同郡

岩間山 正法寺



高玄宗一ヶ寺  
寺以三十尺  
堂二間三六尺  
千手くまんと  
口寸三寸



用山嶽の養徳子口拾一年成

○石山寺に又拾丁

岩間より又六丁上りて峠あり







右よりそりて

あつらひが京

本名多岐仲公

今井四郎義平

さいごの所へ

石塔田の中を

踏む六万石

か多隠波も

石場大津乃入

にに義仲も

たぎよの塚も

矢橋の後の場へ

大津  
町中札場の八丁

▲右赤かいは

糸ついで道

△九り中仙乃

并長命も乃

守山がひさし

かまがひさし

よこせ川

ひさし

川あり

△まがひ中仙乃

たぐひゆく

世に長命も

長命も三りの

乃命もつり

世に長命も

八まんがひさし

八まんがひさし

ひさし

くまのひさし

のひさし

をひさし

右より三井寺

門びんへ出あ

まへ又宿やあ

九り八丁の町

追まけより

右に系る三井

寺へ四り

三井寺

三井寺三井寺

町のまがひ

ひさし

矢橋のまがひ

場へ

すまがひ

お白んうちもさかうちも

お白んうちもさかうちも

てぎやくうち乃人をおくの

百二十目よ平より

第十四番目南院三井寺





天台宗又十ヶ寺余  
御衣印又百石  
堂十間四西南向  
如急幅又尺三寸

教待了のし千百年と  
△たぐ乃院を女人きんぎょ也  
圓系及を新宮より傳来の  
つりが祓あり

△鬼子母神の宮  
○今ぐ魚のへ  
○美山とまへ  
すた三りま  
早今ぐ魚のへ

京洛中系り取 三條大橋より

一十 坊り堂へ 九丁

條 上ノ湯 霊北六丁下ノ湯 霊十丁

通り 御内裏 様へ 式十三丁

二条 奉徳寺へ 三丁

通り 御 殿へ 三丁

三條 寺のぐらんち、式 丁

通り いるむ法師、八丁

四條通り ぎおんの流たじいよ

奉徳寺 二十二丁

天 仗 二十八丁

又条 湯あいの堂 八丁

六條 東奉徳寺 二十三丁

西奉徳寺 三十一丁

七條

洛外四方の圖次 著ス











三井寺の昔々  
右の小園ごとく  
その外より見ると

三井寺より  
さかへんと又十丁  
たぐりたる龍と

ある谷なりと  
たぐりたる龍と  
かけぬけ

かたきたの神  
名本乃堂

多の山へ一リ  
山王七社

八王子の中ろ  
是の女きんざん  
坂よりて右

系今と白乃  
観音寺



堂七間四面南向  
十一めん欽香

弘法大師の化  
白川院御所下

九百廿一年迄  
けりる坂少

のありと  
自水涌寺

御代帝王乃

大りんあり  
比叡山東塔又

根本中堂  
系師如来

権堂  
戒檀堂

釈迦如来  
結教大師堂

西塔谷又  
志やか堂

けりる坂又十丁  
きり坂又十丁

くつりあり  
惣輪橋と別



御菩提所法宗  
兼学の取入

みやこ  
王塔の鬼門之  
之運谷を

●法あり廿丁

坂少くくさる所

けしつてなること

けしつより豊満

多し訓多し

入十丁約て

△東後山内

横川

△伏見あり社

△今らん地人堂

△元三大師堂

け三ヶ所成三塔

△三十三間堂

わづらもとのふく

△大佛殿

天台宗熱中地

△小松谷△西大谷

御糸印又百石

第十六番

●けしつより  
くまへ式り

寺羽山  
法あり寺

より坂△矢野  
大原寂光寺の  
おんら同巻



院授のありて  
急ぎ坂疾光坂



くさ坂より  
急ぐすぐなる三リ

法あり言兼学

門前又省あり

寺以百三十石

八丁のぼりそ

寺ト入朝

▲本堂辰巳向

堂九間四西南向

▲比沙門天

寺子御火八尺

▲二重の塔

宝龜九年延張

▲美師堂

いしき取ま坂の上

▲多宝塔



田村麿堂の前

よぶるあり

千武十七年成

和くの院も

堂のまゝよぶる

あり渡乃城

八つと山又ゆ

地を権現

喜野乃渡

西門の系の所

三つ又ゆ

車舎り子安堂

経学堂

▲八坂の塔

▲くまの地人堂

宝物おんを

まゝにべー

け取よりせの

社くまれをいけ

ぬけりて

●上の茂近三

車坂ふさう坂

信正の谷を年若

丸玄法と学

下坂をりて

▲せねれやしろ

おくの宮へ三丁

斗り新居りて

法少坂をりて  
在りの方へは

弟十七番

普門院

六波羅蜜寺



玄言宗三ヶ寺

寺は七拾石

十二面御堂を以

市原村へ小町  
少将の邸あり

▲二軒葉や

け取より在り

系へまぐら

存行を

▲上の茂△下も

▲上の法皇の社

系乃町入り是

▲御内重

ねんして

▲下の御堂

十九番札所

ゆりごう寺



堂八面四面南向  
ち所り七夜

天曆又奉定也  
十八番六角堂

上人用基之  
門前より右やま

八百又十七年  
西奉願寺

六角堂十六丁  
東奉願寺

建仁寺  
大佛殿

四条通ぎおん所  
世三ヶ人堂

八押りて門あり  
十又青今徳地

祇園年改天を社  
小雲谷西大谷

南のりんせんと  
半六番清法ある

二軒茶や下江  
坂よりて丸に

本社のりしろ  
十七番六丁らる

らか  
△きおんの中り  
本社のりしろ

知恩院  
よりちかか

山門出て大橋の  
△山門出て

る場より三條通  
三條通り宿屋

へ出て大橋の  
△長橋、二百廿二リ

後宿を橋をて  
△下園、百廿八リ

折去る奉堂の  
△大社、百十七リ

西へ泉式部宿塔  
△宮橋、百六リ

新橋乃むあ  
△金ひら、八十二リ

西の口より約てを  
△大和より、廿廿リ

第十番六角堂  
△紀元

頂法寺  
△宮野山、廿九リ

堂六角室形地  
△いせ山田、廿六リ

南向





真言宗寺又朝  
如意輪菩薩の  
海より上へせあり  
聖徳太子守り

●京の宿ハ  
三条大橋東西  
又条ノ橋東  
六角堂前之れハ  
宿より此廻至  
橋子かへ  
五べー  
國つてるるを

拾九番 同行願寺 かつ堂



天名宗寺一軒  
寺 貳拾石  
堂 又間 四面南向  
ふきの清たけ八入

御家上人寛弘二年のかつより  
文化二丑の年迄千百廿一年迄  
け寺者を一糸通りあり  
竹屋町寺町通りあり  
京郊の神社佛園つがも  
徳りりーが去天棚八申の事  
乃大太にのころに焼失し  
今いふは又の堂社あり

●京のやぐら  
上京あり

かつ堂の  
廿番より  
すぐに終ハ  
四り廿八丁  
又三斗のりき

あたご山  
やぐらあり  
廿二丁ん乃  
そりし寺ハ  
終りは



● 五山寺の院

▲ 江戸の寺

▲ 下流の寺

▲ 河内裏

▲ 上の寺

下も上も  
上も下も

▲ 百万石

▲ 右回りの寺

▲ 左回りの寺

▲ 志が谷の寺

▲ 氷川堂

▲ 文徳堂

三条通り  
西回りに

▲ 東本願寺

▲ 西本願寺

▲ 本願寺

▲ 東寺

▲ 西寺

▲ 京三条

▲ けりつぎ

▲ 東寺

▲ 向の神

▲ 弘法大師

▲ 新千世

▲ 五重門

▲ 寺

● 江戸の寺

▲ 小坂の寺

▲ 内裏西の門

▲ 西の門

▲ 西の門

▲ 多一

▲ 寺

▲ 又山

▲ 寺

▲ 上下の宮

▲ 御内裏

▲ 下加茂

▲ 上加茂

▲ 大官の寺

▲ 紫雲の寺

▲ 今宮の社

▲ 大の社

▲ 金剛寺

▲ 小坂

▲ 天波宮の社

▲ 妙心寺

▲ 鳴たき村

▲ 小坂

▲ 寺

▲ 寺

▲ 寺



鴨原入ゆる

へつろ川子

ひろのの神

ようまゆり寺

の神まゝ宿あり

よりまゆりの

八丁まゆり宿あり

北青山林し初郡  
西山 岩倉寺



天石宗寺七初

堂又間七間

東向寺成武百石

ふまき八又仁弘

上人の飛源美上人

かじ七首六千屋

御彩堂△六角堂

●ある入りまの

る乃まちりく

若岩みよこのをこ

けいんゆうしんく

右系左丹波

外の相

者三四んあ

大及より山石

十丁入り

け道の名訓と

小倉山ニ宿院

天純寺

法輪寺

いし山観音

せき宮法堂

いしのまゆり寺

嵯峨らりりて

法清寺とまゆり堂

那出て一のまゆり

試るの坂をりて

きよたき

宿まやあり

け西一丁毎

出まやあり

十九丁目

かきけらげは

亦丁目

大折権現の社

廿二丁目

京の町とまゆり

三十丁目

月輪観音とまゆり

四十八丁目より

まやる

入十丁目

熱りんあり

寺中ハ

宿坊あり



たりよりて峠あり  
 家良し下りてさぶ  
 谷村宿三三げん  
 見ゆるリ斗約て  
 今えおん堂あり  
 坂あり跡あり  
 谷るりて百姓  
 家二三軒宿あり  
 川下り大あき  
 下にてりあり  
 矢田村日明神  
 右よ龜山古塔あり  
 大乃左尾の谷  
 武三げんあり

か祿のちる居り  
 今ふろり一丁斗  
 本社大権現の社  
 奉地地祇尊  
 不動明王  
 毘沙門天  
 ねく乃院  
 右郎坊の社  
 夜よりて本社  
 社社既實政十三  
 申ノ日月焼矣  
 下向ハ元の宮  
 ろうと下を石櫃  
 中程よりたり

次ふ池あり  
 下斗小山の園を  
 ゆく土橋ありて  
 大乃右尾龜山左  
 在りありて寺  
 うらりりん入る  
 其番丹波素因郡  
 穴穂寺



天台宗寺一軒  
 堂八面四面南向

下はあき寺あり  
 けふはうり海く  
 十丁斗ありて  
 過ぎるに在り  
 右の坂も急なり  
 右ふど乃院  
 出葉やあり  
 宿も一武乃あり  
 へ川あり終て  
 龜山へ終に川堤を  
 右よりて西の山  
 出の道あり  
 龜山へありま  
 又方石松平絶修吉  
 摺こて宿あり

二二  
 二二



聖観音仏師

廿二の地宮成

長者こん立慈船

二重の八百四十回

表門は宿屋あり

●そうちちまへり

はらふがまはら

おまへらまら

くはんめまじち

小川をこまて

西河村を水道

歩合及すゆてそ

しちとあ席り廿五

そりしちまへり

かこんらの町より

たりの野たし

うらめんより入る

廿二重のあま寺

宿屋をまのん

ありとら番あり

●は西よりより

はりまのあま宿

まやふまゆ

ららるれが制限

乃町んぐとゆて

は入下席り右土橋と

こてふの君と廿下

斗りゆ池ありひ

家三三好

おしゆけがたたの物はたたるを

右の矢田村の神川あり

大あまはらた橋あり川こゑて

百姓家の宿屋一式らん五

谷らひの坂のありて跡あり家

二一りりて

観音堂より延みちを里斗を

さぶ谷村宿一式らんあり

跡あり家うし一右十下斗り

なごりて大道をちへり

と乃ちまふより岩三十下

宿三回けんあり

廿下をりゆすハ

右へらちらるるり



山乃守後よ

サ喬より一み孫

そらうト寺へまきるる三リ

大ゆんより八丁をりて宿あり

高の岡をたりにんて終

西生乃光明寺

志やか堂名光大師大定乃

跡あり

日向乃明神あま宿やあり

長岡の天神

けしきをみてより

かゝ終山邊のまきより

小浜乃境を南へゆけが

やまこへまきるる武りのまより

●ようしき終り

そらうト寺へまきるる

ようしき

山邊へ武り

山邊より

ゆき川より

入り口の山とた

山とたから寺  
上下三十丁

▲八まんの社

さくら山をり

あま

たりにき観の城

えゆり右ふま

こんまをりト

名あさくら

●ようしき終り

やまこへまきるる

そらうト寺へ

へ渡川

きり終邊より

山よりて所まき

そらうト寺へまき

跡あり

清ゆん八まきるる

志まきるるをりト

▲牟地堂

坂のありて

正八幡宮乃社

正面へまきるる

やまこへまきるる



古曾部村

のくわん法印

乃坂あり

上宮八まん宮

ぶのー川

荻川より

そじ寺へ寄り

川あり大あまもみ孫るー

在りに富田合流本らんゆり

そうど寺東の門前又宿やあ

ら

廿二番 梅津玉湯下郡

補陀庵山 惣持寺

明礼を西へり  
坂中又立石あり  
右そうど寺

橋中より

河を川へ二りま

宿あり

又渡川舟渡り

くへて海方へ出る



天台宗寺

堂又間に西南向

三尺六寸の千手

変化臺子の飛く



御前守安宗官房公建立より  
九百廿十二年と成る

● かし尾寺に二りま

そうど寺がくう山へ一り

那山よりかしをへまりま

け西を宿行至ともいふ助物

右を河あり橋をまきすり舟りて

ふふ切る大りんのまへ十丁

坂まきし也門びんよまやあり

● 中山すまむねのけけし西へ出る



この尾山へ美しがかけぬけ  
本堂のありあり川多々  
るん西のなる鳥雨天は空用

二十三夜同慈頂山

勝尾寺



言言宗

堂七回江西南向

今の堂安永三年

牛年上棟

ふささるは比丘妙観乃地

長仲若若女西上人の建立

取を用機と云人室飛八年の

ふ武十九年と成る

●中山へすぐなる ●みのをとり

からとち門前が 中山三行寺又十丁

夜終ふりて ちちをち本堂の

とくがし皮 まへに夜終三りの

せびはけ西より 同業やるし

奉海及 川筋をついで

池田の中山へ 流のうへよりち

ふ十丁 乃也流のまへ

不動堂にりり武丁斗終

兵助天乃社 今人高堂

役終者 堂 ふりて宿を

池田へまりませ

このを山の寺地より多回院へり

斗のまよりり乃也多田り

源家又代乃神

満仲致信頼光親義公



新家公成り少くして山井と  
 二方院寺ハ員女丸の寺と仲  
 光幸寺丸石塔あり  
 是より中山寺と池田とのある

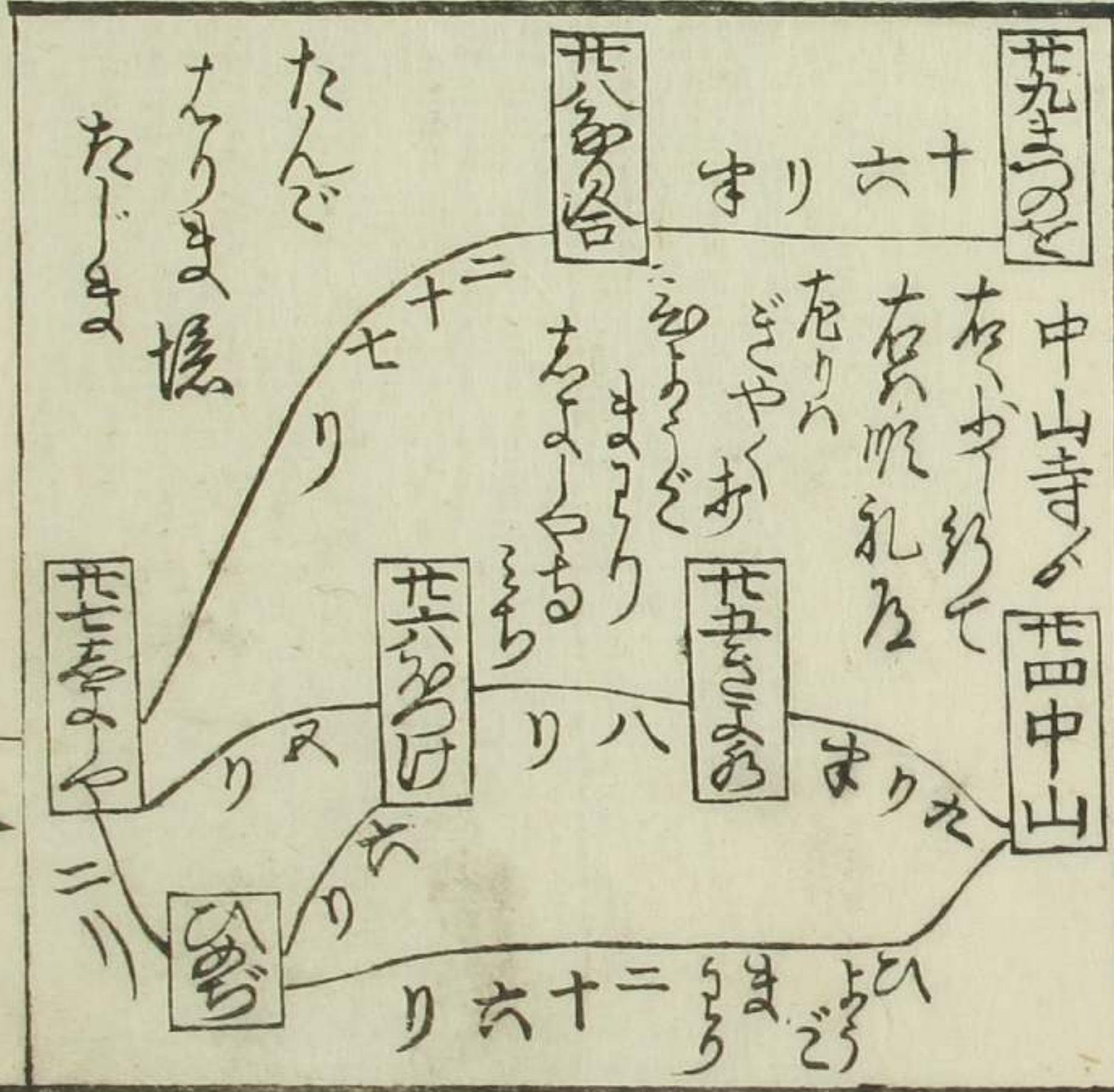
池田中山へ又十丁  
 所の入りには多き石物に川を  
 つたふ川とて山幸村  
 中山大いし乃東西に宿あり

二十四番同河邊那紫雲山



中山寺  
 天台宗又ヶ院  
 堂又同七回南  
 子寺又又す

聖徳太子の能日建之依堂也  
 十王堂乃右縁部之出り多  
 大なる性空上人の住りし  
 人と地獄に押さしもの  
 納りし史やあり









九ニたニくニ 九ニたニくニ 九ニたニくニ

布ニとニけニ谷ニ 布ニとニけニ谷ニ 布ニとニけニ谷ニ

かニやニ 羊ニ外ニ交ニ 羊ニ外ニ交ニ

いニとニたニきニ 羊ニ内ニ交ニ 羊ニ内ニ交ニ

山ニまニ川ニ 羊ニ外ニ交ニ 羊ニ外ニ交ニ

二十ニ八ニ番ニ 羊ニ外ニ交ニ 羊ニ外ニ交ニ

中山ニよりニ 羊ニ外ニ交ニ 羊ニ外ニ交ニ

合ニてニ又ニ十ニ番ニ 又ニ十ニ九ニ番ニ 又ニ十ニ九ニ番ニ

●中山寺より

右ニ 右ニ 右ニ

中山

あニとニとニ 小ニをニ後ニ

ありニまニ八ニニニリニ

三ニリニ川ニ上ニるニまニせニのニ

三ニ回ニ 三ニ回ニ 三ニ回ニ

三ニ方ニ六ニ千ニ石ニ 三ニ方ニ六ニ千ニ石ニ

九ニ鬼ニ 九ニ鬼ニ 九ニ鬼ニ

あニいニのニ あニいニのニ あニいニのニ

一ニリニ 一ニリニ 一ニリニ

なニらニづニみニ なニらニづニみニ なニらニづニみニ

又ニ十ニ丁ニ 又ニ十ニ丁ニ 又ニ十ニ丁ニ

三ニリニ川ニ上ニるニまニせニのニ

三ニ回ニ 三ニ回ニ 三ニ回ニ

三ニ方ニ六ニ千ニ石ニ 三ニ方ニ六ニ千ニ石ニ

九ニ鬼ニ 九ニ鬼ニ 九ニ鬼ニ

あニいニのニ あニいニのニ あニいニのニ

一ニリニ 一ニリニ 一ニリニ

なニらニづニみニ なニらニづニみニ なニらニづニみニ

又ニ十ニ丁ニ 又ニ十ニ丁ニ 又ニ十ニ丁ニ

●中山寺より

右ニ 右ニ 右ニ

中山

あニとニとニ 小ニをニ後ニ

ありニまニ八ニニニリニ

三ニリニ川ニ上ニるニまニせニのニ

三ニ回ニ 三ニ回ニ 三ニ回ニ

三ニ方ニ六ニ千ニ石ニ 三ニ方ニ六ニ千ニ石ニ

九ニ鬼ニ 九ニ鬼ニ 九ニ鬼ニ

あニいニのニ あニいニのニ あニいニのニ

一ニリニ 一ニリニ 一ニリニ

なニらニづニみニ なニらニづニみニ なニらニづニみニ

又ニ十ニ丁ニ 又ニ十ニ丁ニ 又ニ十ニ丁ニ

うニたニらニすニまニのニ 社ニありニ

すニまニのニ川ニ 社ニありニ

あニいニのニ川ニ 社ニありニ

かニたニ天ニのニ川ニ 社ニありニ

すニまニのニ川ニ 社ニありニ



二十又青  
播磨の五  
加東郡  
御岳山  
唐崎寺



天台宗  
十八ヶ寺  
寺以六十石  
土面観音

け村乃  
出たより

すまじり  
云磨く

右のり

三ツリ

まや山石

生田社

一里の号

右乃方

うん登の

揚の子場

上下一リ

新居の

坂急也

▲かすべ

け西より

二ツ家

抄泉接

三ツ家

のう山

楠正成

場大坂

石と

眼のや

右乃方

風氣

あり

け山を

●かすべ

赤松

の

▲摩耶山

交利天上寺

仏母まよまのほ彩

本意ハタリ人ぞ地人

昭和二年徳堂焼失

上世の口入下り

中尾村のまきん

熊赤村より二丁

▲布引燈籠

あ六段と地らる三段の

雨流つ不感り

終基

おさみの

歩地也

堂のけ

ゆりこ

九回四面

くすん

又年

光若上人

再建

文化元年

ふるま

六百九十

日ま

集原堂







佐保の神  
 社於此石  
 神前より  
 系や五  
 とりお村  
 世むら  
 宮坂村  
 けるん  
 新田と  
 ▲いふ  
 の岩屋  
 宿多  
 吉野系  
 今も

海乃くまのり川まで  
 ▲云底のす皮へ一リ  
 平家物ごり後系の  
 系へはとらつ連  
 宿屋札場乃あり  
 あのを町の入にたつ  
 つき為来運寺  
 寺の尾とていれ城  
 宝物完帳呈に經  
 所乃出に  
 ▲志ま吉持乃もあ  
 門出く右と後  
 平おま法盛  
 十三を石乃塔

ねが  
 新田  
 せん  
 二リ  
 かさ  
 うづ  
 勇共  
 同國  
 印南郡  
 法苑山  
 一系寺  
 天名宗  
 三十六書  
 あり  
 百廿石

和国の所勝とていれ  
 りり毛より深き  
 るより小浜乃堤  
 本海乃へ出  
 ▲東次摩△西次  
 所乃出右より右  
 雲風村雨乃旧  
 とな村さく系  
 ▲順摩寺  
 たるへをり  
 熱門を額に盛  
 るだらりのちり  
 二王門のかくよ上  
 後祥寺とある少



堂九間  
四面欠地

堂此まへ又茶や一軒  
らま

南向  
あま観音

寺堂のうへ海をく室  
のねん屋又住尼

一丈式又  
法名仙人

舟菱ささの割札  
にのりのれ浄教

用基也  
白雉元年

にをむらうふま  
徳谷の治郎が赤猪

より  
あま

のり此等ちり堂  
乃揚るはせふ杯を

千百  
三十三年

軍用又扱せ奉りしと云  
長徳公丹生此山田より



三毛地塔

一の谷是より本海を

らま堂

存の方又安徳天皇を

押乃院

乃記うへ海をく室

洞山堂

が岩坂押し乃谷

才写書ハ

け方の乃まどすぐて

ハリ  
法苑山

海邊をく取又よりたの

ニリ才

波赤原右を山根ゆ二膝

うろ峠

おの乃ちり張又西玉の  
冥討と入ゆる経年



うどの橋  
石乃ちう  
せん、め  
まじり  
口方三石  
乃社と石  
ゆき地り  
うしうく  
こじり  
かきり  
け石の下  
る口方  
んぞと地  
あたり  
て魚すむ

鉄場也(名新ま) 淡路へ皮の道くるる  
少く砂川又小石を  
積るる所あり  
二の谷 経盛公(名新ま)の  
妻にあり又まぐ小川と  
つとをたる砂川也  
三の谷 そのま  
敦盛公討死す所  
又ア人の石塔あり  
昔又出まをま塩や村  
たるもがらか、ニリ  
こしきて宿の所を  
たはるなりとよ

大石子  
▲石流燈  
は二神  
地を  
あふま  
君況  
さぬが  
藤ま  
でんらり  
向ふ山  
涉新石  
まききり  
出し居る  
あ根  
いっへ  
三三

仲喜天と涉渡の山と  
らそ山乃地中壺を  
埋む有るぬ敷と志乃  
壺乃中より松乃大本  
いそくあ霊説さぬぐ  
あり山をどりて  
藤ま乃渡出まを  
らそて積ま也  
山田村  
▲大々谷は雨より  
る所つまきれ場す  
乃右人丸の神へゆ  
るあ十丁斗も此号  
け石の家井より少



天波文  
の五甲ろ

少一在入るまよ  
忠なる石塔あり

名本乃

▲人丸明神  
門せしより在りてま

ま尖を

あかし道あり

口方乃

▲明石を文を一リ  
六万石塔を

松平在ま傍管

三十八石

▲大久保ののぞり三石

▲東本は敷

▲柔やま かしが坂

まの葉を

小くは 六万人葉や

志原を

りり村

ややく

▲西谷村乃出に

いぢぢく

新田義氏乃石塔

▲大目村

時台が押のく一リ

本海乃

▲東のりんよりし入

まを井

▲刀田山 屠林寺

法名村

▲聖徳太子のつたの西  
奉る美砂如來  
寺銀百五十石と公家  
あめり大門は出て連



中々

▲おのくそ孫、一リ

川あり

後吉の神社あり

大川

おのの種 あまき おすけ あまき

ちれび

▲おご村へせ川海

かま枝

花りふき砂とゆり

まき

大さき 市場村

おめぢ

ふ砂と物の入のおのより

那井

たまと約てかこ川後りて

入るに

那うちまき地すまはの

ちや

社にお生れまおの橋

那

とまおれまおまの

廿下

ふせりけあが

宿や

とぬき令をら後海は

るく

▲天満宮 岩根の松

石のり

石乃あうでんより

をたも

おめどく 式り

あま

▲姫湯より坂、一リ

城

城ま 拾万石 酒井雅楽頭

那

那とまき大石の石

ま

ま抄人ふりゆり

○

とぬき令をらまの

志

志る海門とまふ取出る

知

知ちる中附口のす下下

あ

あけまはとまき

六

六本まの村 川あり

▲

坂本の書写山十八丁

▲

坂本の書写山十八丁



▲女人堂は西又ありびやあ  
まごより此人をばあおらり  
女中けくの下の向ともいなり  
おもんねまじし人をいふり

かけぬけあまのりり

より坂又雨合りありさ大の人の

まんにあやあり▲ふさう堂あり

少くざりて石橋ありあや

あやかけぬけをば堂公堂

おれども善信のる奥あり

▲志やの堂に礼請乃教世喜

ゆる安堂いたてまうる

▲廿七番よりまは加た那  
書寫山 圓教寺



天名宗寺六字新  
寺依八百二十石



堂十間尺西南向  
如云論今らんあひ  
安徳行者は能之

性室上人永延二年開基より

九百五十六年よあり也

△文殊堂△河弥院堂△無量壽

○二十八番お後ありあの

順しんより 式十七リ

逆さかより 三十にり

▲廿七番 ▲坂の志を村二リ

書寫山の 田付とありあの

大の 一リ  
△よとせれた村八市川



△大いん

のまゝく

より

たぐく

くぐり

△押舟

より

あはれ

△まのな

より

△まのな

より

まきり

△中島村川あり

△大が枝村

△大が枝村

△大が枝村

△大が枝村

△大が枝村

△大が枝村

△大が枝村

△大が枝村

△大が枝村

△大が枝村

△大が枝村

△大が枝村

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川

△市川



より	りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる
は赤岡家とて宿を	△本は村△三益村上下	る瀬がさうか、二り	△西の川村	坂のく十八丁とて	堂はあゝまや二りあり	二十又まゝとらまは法ある	ありおく式十二り	法ある市東一り	茶を中山の野を以て終之
りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる
りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる

行田	をり	川あり	川あり	川あり	川あり	川あり	川あり	川あり	川あり
名をたより取れた	△人びの△にら所	△中ろ△大い△おどぬ	川あり大あゝは二のせと	そゝあゝあゝ又世あゝ	りる橋あり二りはとら	△福さ村川のり	△山母村△大山村	坂五より七八丁より世下	向山△赤井△部城江
りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる
りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる	りる



まろ

井原

つり

たんご

かつが

より

たご

二りき

九だご

より

ほま

谷

まきり

くもが

△のぶの村△たごり村

川あり△ごごりむら

柏種のたごりありとまごり村あり

△おらごり村川あり

市橋いちばしがたごり一り

はごり二十丁なる竹園たごり

とまごり

△たごりがらち山一りき

はよの原はよののたごり大山

鬼人退治おにのしりぞけのたごり

せしとまごりあり

法はふの二百坂△まごり回

△まごり村

とら

大いふ

アちり

赤あ

だふ

より

おや

おや

たご

おや

おや

おや

おや

おや

おや

後のち知山ちりのたごり三り

三万さんま千石せんせき村本むらもと出守でしゅ

町中まちなかのたごり一りあり

ありくごらる△たごり

△たごり入△さごり川

たごりまあおりの場たごり

まごりおらるるたごり

おらるるたごり一り

十八丁じゅうはちぢょうのたごり

△おやの社やのは十じゅうまごり

と向むか右みぎの門かどはまごり

あり川がわ二につまごり

内うちまごり一り

町まちまごり一り

町まちまごり一り



小まろ  
まろり  
▲小まろ  
まろり  
あり  
あひ  
十八の  
のり  
坂中  
そそ  
送あ  
のんと  
か  
会

内宮の事乃延は西の  
不考時よりて動苗  
事やまで三ツ乃同  
と乃より平地はし

内宮社八十五社  
天社名戸と云石あり  
川中に流府い  
うまならひと云云

は西よりとそそ古橋を  
奉たよの安公之六丁斗  
約や解川にあり  
三乃表せんぞい  
源光光にひ石血波  
の川と云云十八丁

▲あり  
はひ  
十八丁  
りりそ  
▲ささり  
村より  
きれあ  
文殊  
▲はま  
りり  
甲の原  
まの  
りり  
より

おくふるまかたけ鬼  
が機あえん物してまづ  
出る乃あより一原の  
ねえと大い山鬼人退  
流あり一河の名あり  
▲はま村宿武之形

▲中の事や十丁斗は  
若七八りんあけ西坂乃  
七八あめありがんと案  
をきで 武り

ふかりさあげあは  
けあより南系は  
ふいあふ山あ松尾  
寺ははあは山あ



きれし  
六文を

り板もきりて石  
はし紐當りも二軒は

宮津  
寺り

七万石 松平修豫吉  
宮津よりきれと寺り

け西に北をきりて東よとあり

おむりりるる日六本物取もよう

龍燈の雲の片枝の松を考據

△天橋山知恩寺 文殊堂

松原一り乃るん橋立の神泉  
式部乃井戸を両方海ら置た

△多らり村大神宮は前十分

下向はまじり重なり十二丁

よりて明透出合所なり

大り人のまへもきりて

と宿もかひかり

第二十八番 丹後国佐那

世対山成相寺

寺は三十六石





志保のうんおん  
志保上人地かつて天武天皇  
法願所 八百五十と成る

○山尾の尾へ十式りす

志保の尾へ十式りす

官法より くらんご、一りす

△たんと村 坂あり

くらんごより ゆらく、一りす

△台又宿三三軒あり村の右に

塩の敷之坂あり七まがり八味と

そよふたふたあり松也又ある前

安妻姫 けし丸の葉くらん

とんせし新とくらん

三つめ乃津松式幸なると文は  
回造の坂よりて谷に出来や  
ありし時あり坂ありし  
ふたつ松とくらんあり坂あり  
そよ一たりけくらん又三つ  
たまと成設せし一とくらん  
なりあり

たりにけくらんを  
多く塩むくらんゆり

中良新田の中山へ式り

けり石をくらんあり坂あり

△石歩村 廿斗より右の方へ

二三度たまをくらんあり

△くく川あり△志保村の斗



押入村ふか寺より八人白姫  
つら丸乃宮にあり

中山のたあ庵 式り

宿をまきしりまにあり

大島峠坂中△後井村を

回急よりまののこく口り

三方石敷神を前守

脚の入りと右やあり所乃橋

たぐり所出く土を修く

△押入新回△後及村△り村

△たが村△市場△鹿系

△芝尾村の十八丁約てたぐ

のたてを有十二丁約有や

大門の石版よりてまやあり

第廿九番丹後加佐郡

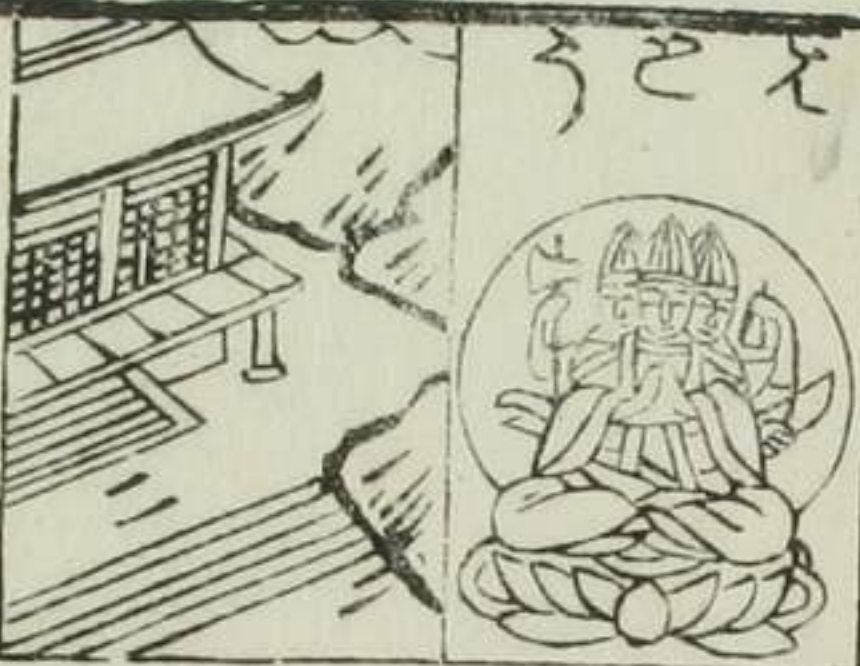
吉兼山松尾寺

吉云宗寺又新

寺以式十石

堂又同口西南向

了記くらん抄ん



威光上人の地一宗院を院建三

九百年と成法松宗を再建

け堂丹後[ ]のまごうい

○竹ぶいぬへ十九り

松の尾より高と度へ式り

本堂のたぐり一り斗約と松

おく海乃たぐりて出海

たるんをてるくんゆ



高濱<sup>たかひら</sup>のりんごう、式り

町家あり改<sup>か</sup>二<sup>に</sup>三<sup>さん</sup>村は平<sup>ひら</sup>ら  
おむ後<sup>ご</sup>に<sup>に</sup>糸<sup>いと</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>む

中<sup>なかつ</sup>御<sup>ご</sup>のおだま、三<sup>さん</sup>り  
日<sup>ひ</sup>ふねあり中<sup>なかつ</sup>尾<sup>お</sup>村<sup>むら</sup>を<sup>を</sup>む<sup>む</sup>村

かと坂<sup>さか</sup>せ坂<sup>さか</sup>あり

宗<sup>むね</sup>良<sup>よし</sup>二月<sup>にがつ</sup>堂<sup>どう</sup>の<sup>の</sup>か<sup>か</sup>さ<sup>さ</sup>り<sup>り</sup>井<sup>い</sup>く  
通<sup>とほ</sup>ふ<sup>ふ</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>粉<sup>こな</sup>の<sup>の</sup>瀬<sup>せ</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>む<sup>む</sup>は<sup>は</sup>

△八百<sup>やっぴ</sup>比<sup>ひ</sup>丘<sup>かみ</sup>厄<sup>やく</sup>の<sup>の</sup>宮<sup>みや</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>む<sup>む</sup>後<sup>ご</sup>乃<sup>の</sup>

十<sup>じゅう</sup>斗<sup>と</sup>の<sup>の</sup>前<sup>まへ</sup>の<sup>の</sup>十<sup>じゅう</sup>斗<sup>と</sup>より<sup>より</sup>下<sup>した</sup>

伊<sup>い</sup>勢<sup>せい</sup>両<sup>りやう</sup>宮<sup>みや</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>れ<sup>れ</sup>、定<sup>じやう</sup>行<sup>ぎやう</sup>り

小<sup>こ</sup>湊<sup>みなと</sup>より<sup>より</sup>お<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>へ<sup>へ</sup>一<sup>いち</sup>り

拾<sup>しゅう</sup>三<sup>さん</sup>万<sup>まん</sup>石<sup>せき</sup>酒<sup>しゅ</sup>井<sup>い</sup>俵<sup>はつ</sup>程<sup>ほど</sup>を<sup>を</sup>捕<sup>と</sup>

脚<sup>あし</sup>の<sup>の</sup>入<sup>い</sup>り<sup>り</sup>、桑<sup>くわ</sup>や<sup>や</sup>あり町<sup>まち</sup>井<sup>い</sup>より<sup>より</sup>  
お<sup>お</sup>む<sup>む</sup>も<sup>も</sup>宿<sup>しゆく</sup>あり△<sup>△</sup>津<sup>つ</sup>走<sup>そう</sup>あり

船<sup>ふね</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>三<sup>さん</sup>百<sup>ひゃく</sup>石<sup>せき</sup>を<sup>を</sup>か<sup>か</sup>へ<sup>へ</sup>よ<sup>よ</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>く  
鬼<sup>おに</sup>生<sup>せい</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>後<sup>ご</sup>川<sup>がわ</sup>へ<sup>へ</sup>三<sup>さん</sup>り<sup>り</sup>す

△<sup>△</sup>東<sup>とう</sup>市<sup>し</sup>場<sup>ば</sup>へ<sup>へ</sup>大<sup>だい</sup>小<sup>せう</sup>路<sup>ろ</sup>△<sup>△</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>枝<sup>え</sup>

△<sup>△</sup>い<sup>い</sup>ろ<sup>ろ</sup>と<sup>と</sup>△<sup>△</sup>天<sup>てん</sup>徳<sup>とく</sup>寺<sup>じ</sup>村<sup>むら</sup>△<sup>△</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>村<sup>むら</sup>

△<sup>△</sup>み<sup>み</sup>や<sup>や</sup>け<sup>け</sup>村<sup>むら</sup>△<sup>△</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>や<sup>や</sup>村<sup>むら</sup>

徳<sup>とく</sup>川<sup>がわ</sup>の<sup>の</sup>山<sup>やま</sup>中<sup>なか</sup>へ<sup>へ</sup>一<sup>いち</sup>り<sup>り</sup>す

宿<sup>しゆく</sup>屋<sup>や</sup>の<sup>の</sup>入<sup>い</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>中<sup>なか</sup>後<sup>ご</sup>と<sup>と</sup>あり

出<sup>で</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>湯<sup>ゆ</sup>ま<sup>ま</sup>西<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>女<sup>め</sup>を<sup>を</sup>團<sup>だん</sup>西<sup>せい</sup>と<sup>と</sup>

改<sup>か</sup>る<sup>る</sup>△<sup>△</sup>大<sup>だい</sup>板<sup>ばん</sup>村<sup>むら</sup>△<sup>△</sup>石<sup>いし</sup>乃<sup>の</sup>也<sup>なり</sup>

山<sup>やま</sup>中<sup>なか</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>坂<sup>さか</sup>へ<sup>へ</sup>す<sup>す</sup>り

は<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>は<sup>は</sup>湯<sup>ゆ</sup>の<sup>の</sup>後<sup>ご</sup>の<sup>の</sup>湯<sup>ゆ</sup>を<sup>を</sup>西<sup>せい</sup>と<sup>と</sup>

女<sup>め</sup>の<sup>の</sup>代<sup>だい</sup>玉<sup>たま</sup>へ<sup>へ</sup>出<sup>で</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>を<sup>を</sup>改<sup>か</sup>める<sup>る</sup>

西<sup>せい</sup>へ<sup>へ</sup>は<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>尾<sup>お</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>名<sup>な</sup>坂<sup>さか</sup>と<sup>と</sup>

ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>名<sup>な</sup>坂<sup>さか</sup>と<sup>と</sup>







あはより場を  
 一丁斗乃坂を  
 ①石山公世一書又  
 三十二番の札あり  
 人と竹生傳のふもと  
 約束すべし  
 次の下七丁又た下  
 一より二丁まで  
 ○古津今津と  
 ありておぼえらる  
 俣田よりふい付乃  
 人と竹生傳のふもと  
 古津のり房納末

廿丁むら  
 子にのり  
 ▲去のり  
 ▲にば  
 ▲八まん  
 又十丁乃  
 もらり  
 三十一番  
 長命寺  
 十丁のり  
 三十二番  
 今津  
 古津

しそ  
 及中紀下の段  
 一より二丁まで

②  
 今津  
 古津

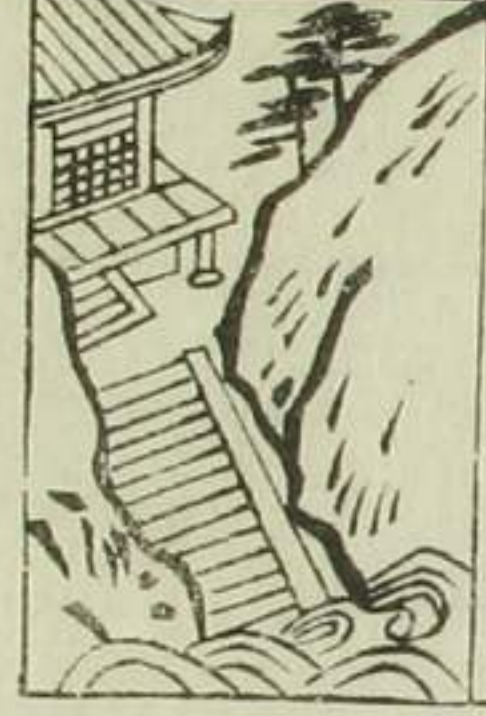
三十番近江國

▲今津  
 ▲古津



淡井郡  
 竹生傳  
 宝蔵寺

▲大みぞ  
 ▲今津



天衣宗  
 寺八郎

▲小松村  
 ▲今津

知行三百石  
 四酒南  
 年約基  
 一十七百七十三

▲三  
 ▲三  
 ▲三



おくの陵系成天皇物敷所と  
ふらん屋たまうに長命寺あり

みんのりより湯より六丁  
まわりる殿よりて

三十一番道に玉浦生那

姨崎耶山 長命寺

天名宗十ヶ寺

寺飲百石

堂七間に西南向

聖徳太子子園基

聖觀音弘法志願

の湯池ありより百九十八丁

長命寺の早斗りよりてたり

八まんりあまのふらる居まての



約米とて一又観音寺の林蔭  
も船あり

くがらハ△船本村より約て橋

つりけり前よりたり又八まん

迫みち之長命寺のまきりす

△八幡宮大社也所の名も八まん

とて下向の居の方かけぬけ

所の名に宿る△降乐寺村

右とんちの△降樂院を安去

海の五一西と向したるあり

観音山乃蘇我足寺八幡長

公の寺也けりよりかけぬき

のぢるるあり

奉た八幡と本神のうり候を



通り△石寺村より十二兩上  
け山ハ依々本名奥城跡也石  
久倉の石垣あり又砂りあり

延三十八年同國後山

観音寺

天台宗一ヶ寺

堂又同四面南向

千手菩薩自他

聖徳太子の建立

千百九十四年



たにぐらへ十九り

観音寺の五つ川くまりす

本堂の賜り十三丁の坂あり

△西家村△本曾海及びあり

△小所村△南所村△おむこ村川あり  
但しおむこむし

△越川△たろふ、或り八丁

△くろかけ△せんど△石のそと

△四十九院村△新所△つら所

△おろし村川ありおむこ

△高宮△とりとへ、まりす

所中右も居ありまむの林

くまりのまわり

△まむの社別當不動院新入夏

○いぶきののき○日向明神

○あぶきののき○山田の神○猿田

未社○伊勢の西宮○はたさくや

安永二己年法堂社悉く焼失す







熱氣<sup>ねつぎ</sup>磯<sup>いそ</sup>一<sup>いち</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>ありあり  
源<sup>みなもと</sup>と<sup>と</sup>表<sup>あらわ</sup>者<sup>もの</sup>乃<sup>すなは</sup>隼<sup>はやぶさ</sup>あり<sup>あり</sup>標<sup>しるし</sup>を<sup>を</sup>石<sup>いし</sup>に<sup>に</sup>

△あんど村 △長<sup>なが</sup>沢<sup>ざい</sup>村

柏<sup>かしわ</sup>系<sup>けい</sup>より<sup>より</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>ど<sup>ど</sup>、ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>

△長<sup>なが</sup>冬<sup>ふゆ</sup>吉<sup>きち</sup>村 △今<sup>いま</sup>沢<sup>ざい</sup>村<sup>むら</sup>両<sup>りやう</sup>村<sup>むら</sup>と

家<sup>いへ</sup>又<sup>また</sup>六<sup>む</sup>軒<sup>けん</sup>の<sup>の</sup>間<sup>ま</sup>又<sup>また</sup>溝<sup>ぞう</sup>あり<sup>あり</sup> [長<sup>なが</sup>法<sup>ぽう</sup>]

け<sup>け</sup>西<sup>にし</sup>瓜<sup>うり</sup>又<sup>また</sup>濃<sup>のう</sup>と<sup>と</sup>迫<sup>せま</sup>の<sup>の</sup>鹿<sup>しか</sup>物<sup>もの</sup>狩<sup>かり</sup>

と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>五<sup>ご</sup>塔<sup>たつた</sup>一<sup>いち</sup>丁<sup>てい</sup>半<sup>はん</sup>斗<sup>と</sup>約<sup>やく</sup>八<sup>はち</sup>年<sup>ねん</sup>者<sup>もの</sup>

今<sup>いま</sup>沢<sup>ざい</sup>より<sup>より</sup>せ<sup>せ</sup>た<sup>た</sup>が<sup>が</sup>系<sup>けい</sup>、ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>

△山<sup>やま</sup>中<sup>なか</sup>村<sup>むら</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>に<sup>に</sup>た<sup>た</sup>る<sup>る</sup>熱<sup>ねつ</sup>気<sup>ぎ</sup>所<sup>しよ</sup>希<sup>まれ</sup>と

め<sup>め</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>が<sup>が</sup>石<sup>いし</sup>塔<sup>たつた</sup>あり<sup>あり</sup>く<sup>く</sup>ろ<sup>ろ</sup>血<sup>ち</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>

川<sup>かわ</sup>上<sup>かみ</sup>又<sup>また</sup>熱<sup>ねつ</sup>気<sup>ぎ</sup>の<sup>の</sup>長<sup>なが</sup>沢<sup>ざい</sup>右<sup>みぎ</sup>の<sup>の</sup>三<sup>さん</sup>女<sup>にょ</sup>を<sup>を</sup>

殺<sup>ころ</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あり<sup>あり</sup>  
△石<sup>いし</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>げ<sup>げ</sup>村<sup>むら</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>川<sup>かわ</sup>

△大<sup>おほ</sup>夏<sup>なつ</sup>村<sup>むら</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>に<sup>に</sup>た<sup>た</sup>る<sup>る</sup>夏<sup>なつ</sup>家<sup>いへ</sup>の<sup>の</sup>跡<sup>あと</sup>

夏<sup>なつ</sup>系<sup>けい</sup>合<sup>あ</sup>銭<sup>せん</sup>の<sup>の</sup>首<sup>くび</sup>塚<sup>づか</sup>あり<sup>あり</sup> (丸<sup>まる</sup>)

岡<sup>おか</sup>系<sup>けい</sup>より<sup>より</sup>た<sup>た</sup>る<sup>る</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>

所<sup>ところ</sup>中<sup>なか</sup>の<sup>の</sup>た<sup>た</sup>り<sup>り</sup>に<sup>に</sup>八<sup>はち</sup>半<sup>はん</sup>宮<sup>みや</sup>を<sup>を</sup>け<sup>け</sup>た<sup>た</sup>り<sup>り</sup>

水<sup>みづ</sup>園<sup>えん</sup>海<sup>かい</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>て<sup>て</sup>石<sup>いし</sup>山<sup>さん</sup>寺<sup>じ</sup>より<sup>より</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>や

お<sup>お</sup>ろ<sup>ろ</sup>く<sup>く</sup>人<sup>ひと</sup>け<sup>け</sup>者<sup>もの</sup>出<sup>で</sup>て<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>

せ<sup>せ</sup>た<sup>た</sup>が<sup>が</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>合<sup>あ</sup>銭<sup>せん</sup>は<sup>は</sup>け<sup>け</sup>造<sup>ぞう</sup>三<sup>さん</sup>四<sup>し</sup>り

の<sup>の</sup>間<sup>ま</sup>△井<sup>い</sup>上<sup>かみ</sup>の<sup>の</sup>宿<sup>しゆく</sup>長<sup>なが</sup>が<sup>が</sup>家<sup>いへ</sup>の<sup>の</sup>跡<sup>あと</sup>

玉<sup>たま</sup>の<sup>の</sup>井<sup>い</sup>堀<sup>ぼり</sup>女<sup>にょ</sup>が<sup>が</sup>塚<sup>づか</sup>の<sup>の</sup>南<sup>みなみ</sup>又<sup>また</sup>

鶴<sup>つる</sup>籠<sup>かご</sup>山<sup>さん</sup>苑<sup>えん</sup>子<sup>こ</sup>が<sup>が</sup>古<sup>こ</sup>脚<sup>きゃく</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>

次<sup>つぎ</sup>に<sup>に</sup>表<sup>あらわ</sup>系<sup>けい</sup>新<sup>あらた</sup>右<sup>みぎ</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>居<sup>い</sup>る<sup>る</sup>あり<sup>あり</sup>

南<sup>みなみ</sup>宮<sup>みや</sup>の<sup>の</sup>社<sup>しゃ</sup>た<sup>た</sup>る<sup>る</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>か<sup>か</sup>け<sup>け</sup>接<sup>せつ</sup>の<sup>の</sup>

た<sup>た</sup>る<sup>る</sup>石<sup>いし</sup>回<sup>わい</sup>三<sup>さん</sup>成<sup>じやう</sup>出<sup>で</sup>張<sup>ちやう</sup>之<sup>し</sup>所<sup>ところ</sup>







東山乃人又若光寺へまう人を  
谷々せよりかけぬけ

△坂中へ宿ふまも坂の上下十  
丁より此より坂村より式丁  
心かり新親世番足跡の石  
多分此法同とあり

谷汲大門の内外に宿あり

三十二番英濃國大野郡

谷汲山花嚴寺

十一



天台宗十八丁寺  
寺於四石堂又同



四面南向之  
十一面佛丈七尺  
法華上人の御心

願主大倉光信丈化元又文化二  
世年中まで相相千八十一一年成る

大門出くたよりまたて石あり

○若光寺へ七十式り

○本曾路江戸へ九十七りす

○若光寺へ江戸へ二十九り

○若光寺へ日光山へ三十九り

江戸へ百六り余

○いせ系宮乃三十六りす八丁  
谷々せの白石屋のくことなる  
船子の船中夜入らぬ用心  
にらるる

今よりいせ系中絶を

○いせ系ありあり

三十二丁

記

百一







谷波より●本曾路  
●日光寺●日光山●江戸道

たみぐもより山に二り  
あかせら

山口よりあぢふ、三り

△あぢふ寺▲きたへ川二ありふ糸

加納りちりぐうぬま、四り八丁百口文

△二万石石城、永井伴左守

是が本曾海道

▲三池新田 ▲新田村

特泥うぬまが左回、二り 百十七文

▲さつさ坂 ▲どび首村

右回あがふー、三り 百十七文

へ左回川ふら六文▲今後村

伏見がみたけ、一り又下廿一文

小あぢふの旧道あり

術うけ嶽が右をさ、三り 六十八文

細久ひのま、大くで、一り廿下廿六文

▲二ツ敷ふを峠た良よみみけ山

お加賀のま、山西、信濃山、ゆ

大久おのま、押おい、三り廿 九十七文

▲大がおここ ▲ふららや ▲またた村

大井おのま、おおい、三り廿 又十文

坂さ本

中津なが、おおち、合あ、一り又下廿又文

▲上五坂村

尾お合あがままこめ、一り又下廿八文

けけ本もの、おおち、本もの、山やの間廿一り



つる籠つらごめがつまごめ、二リ 四十九文

坂あり 志るの ▲志るがほまごめ坂

▲一石土地

素籠つらごめがみごの二リ 卅十八文

▲中野村

みごのふの志る二リ 卅六十八文

▲志るが ▲十二栢村 駒がだけこむる

野の鹿かがとろく、二冊 卅四十八文

▲長世 △大しき

次原つぎはらがあげ唐、三冊 卅九十八文

▲むんぞ村 ▲立砂 ▲孫ざめ成泉寺

上々松が志る志ま、二リ 卅六十八文

▲しんけ ▲中平 ▲万郡

後のち海うみが志るの二リ 卅二十九文

けり戸と系とのるふりか  
津つ園の新しんをあり井い同どう系けいあり

▲くりり村

官くわんのの獄ごくが志る系、二リ 卅十八文

▲志る村 本ほん名な系けい仲ちゆう城じやうの志あり

とりか系けい山さん吹ふきの系けい ▲よーご

教きやう系けいが志る井、二リ 卅二十九文

とりの系、上かみ下した三さん下したり 卅二下

宗そう良りやう井いが志る二リ 卅廿七文

▲志る村

勢せい河がが志る山、二リ 卅十七文

▲平岩村 けり返かへ本ほん名な山さんの志あり

▲志るが志る かねはー  
本山ほんさんが志るは、卅下 卅六文



まきご金村

洗<sup>せ</sup>る<sup>る</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>不<sup>ふ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>久<sup>く</sup>り<sup>り</sup>世<sup>せ</sup>下<sup>下</sup>世<sup>せ</sup>七<sup>七</sup>文  
け<sup>け</sup>西<sup>西</sup>の<sup>の</sup>入<sup>入</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>大<sup>大</sup>回<sup>回</sup>の<sup>の</sup>倍<sup>倍</sup>多<sup>多</sup>分<sup>分</sup>公<sup>公</sup>  
る<sup>る</sup>を<sup>を</sup>下<sup>下</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>一<sup>一</sup>取<sup>取</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>名<sup>名</sup>と<sup>と</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>る

月<sup>げつ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>村<sup>むら</sup>名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>元<sup>もと</sup>若<sup>わか</sup>光<sup>みつ</sup>寺<sup>てら</sup>道<sup>みち</sup>

す<sup>す</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>へ<sup>へ</sup>江<sup>え</sup>戸<sup>と</sup>屋<sup>や</sup>

き<sup>き</sup>た<sup>た</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>が<sup>が</sup>系<sup>けい</sup>

塩<sup>しほ</sup>庭<sup>にわ</sup>下<sup>した</sup>世<sup>せ</sup>七<sup>七</sup>文

三<sup>さん</sup>り<sup>り</sup>七<sup>しち</sup>十<sup>じゅう</sup>八<sup>はち</sup>文

ど<sup>ど</sup>ろ<sup>ろ</sup>げ<sup>げ</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>手<sup>て</sup>巻<sup>まき</sup>見<sup>み</sup>  
坂<sup>さか</sup>を<sup>を</sup>下<sup>くだ</sup>り<sup>り</sup>て

す<sup>す</sup>へ<sup>へ</sup>明<sup>めい</sup>神<sup>しん</sup>の<sup>の</sup>社<sup>しゃ</sup>

つ<sup>つ</sup>で<sup>で</sup>湯<sup>ゆ</sup>あ<sup>あ</sup>り

下<sup>した</sup>飯<sup>いひ</sup>沼<sup>ぬま</sup>分<sup>ぶん</sup>

又<sup>また</sup>り<sup>り</sup>八<sup>はち</sup>十<sup>じゅう</sup>百<sup>ひゃく</sup>七<sup>しち</sup>十<sup>じゅう</sup>五<sup>ご</sup>文

せ<sup>せ</sup>た<sup>た</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>ん

一<sup>いち</sup>り<sup>り</sup>廿<sup>にじゅう</sup>四<sup>し</sup>世<sup>せ</sup>七<sup>しち</sup>文

江<sup>え</sup>東<sup>とう</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>あ</sup>へ

一<sup>いち</sup>り<sup>り</sup>寺<sup>てら</sup> 世<sup>せ</sup>二<sup>に</sup>文

新<sup>しん</sup>田<sup>でん</sup>村<sup>むら</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>

村<sup>むら</sup>井<sup>い</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>ん

一<sup>いち</sup>り<sup>り</sup>寺<sup>てら</sup> 廿<sup>にじゅう</sup>四<sup>し</sup>世<sup>せ</sup>七<sup>しち</sup>文

平<sup>へい</sup>田<sup>でん</sup>村<sup>むら</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>

松<sup>しょう</sup>本<sup>ほん</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>ん

一<sup>いち</sup>り<sup>り</sup> 二<sup>に</sup>十<sup>じゅう</sup>四<sup>し</sup>文

上<sup>うへ</sup>の<sup>の</sup>す<sup>す</sup>こ<sup>こ</sup>一<sup>いち</sup>り

つ<sup>つ</sup>で<sup>で</sup>湯<sup>ゆ</sup>あ<sup>あ</sup>り

和<sup>わ</sup>田<sup>でん</sup>村<sup>むら</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>

東<sup>とう</sup>坂<sup>さか</sup>西<sup>せい</sup>坂<sup>さか</sup>あ<sup>あ</sup>り

伴<sup>ばん</sup>西<sup>せい</sup>坂<sup>さか</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>

和<sup>わ</sup>田<sup>でん</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>

長<sup>なが</sup>く<sup>く</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>

一<sup>いち</sup>り<sup>り</sup>寺<sup>てら</sup> 三<sup>さん</sup>十<sup>じゅう</sup>文

若<sup>わか</sup>田<sup>でん</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>

一<sup>いち</sup>り<sup>り</sup>八<sup>はち</sup>十<sup>じゅう</sup>廿<sup>にじゅう</sup>四<sup>し</sup>文

石<sup>いし</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>

屋<sup>や</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>

や<sup>や</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>

三<sup>さん</sup>十<sup>じゅう</sup>二<sup>に</sup>十<sup>じゅう</sup>七<sup>しち</sup>文

松<sup>しょう</sup>抄<sup>しょう</sup>村<sup>むら</sup>の<sup>の</sup>山<sup>さん</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>

あ<sup>あ</sup>さ<sup>さ</sup>は<sup>は</sup>湯<sup>ゆ</sup>家<sup>か</sup>毎<sup>まい</sup>

と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>

和<sup>わ</sup>田<sup>でん</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>

一<sup>いち</sup>り<sup>り</sup>寺<sup>てら</sup> 六<sup>りく</sup>十<sup>じゅう</sup>四<sup>し</sup>文

い<sup>い</sup>ろ<sup>ろ</sup>の<sup>の</sup>村<sup>むら</sup> 赤<sup>せき</sup>坂<sup>さか</sup>津<sup>つ</sup>

一<sup>いち</sup>り<sup>り</sup>十<sup>じゅう</sup>一<sup>いち</sup>十<sup>じゅう</sup>二<sup>に</sup>十<sup>じゅう</sup>八<sup>はち</sup>文

そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>所<sup>ところ</sup> 松<sup>しょう</sup>を<sup>を</sup>村<sup>むら</sup>

か<sup>か</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>

金<sup>かね</sup>田<sup>でん</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>

三<sup>さん</sup>り<sup>り</sup> 百<sup>ひゃく</sup>に<sup>に</sup>文

大<sup>だい</sup>崎<sup>さき</sup>を<sup>を</sup>二<sup>に</sup>十<sup>じゅう</sup>四<sup>し</sup>文



うらまう峠

▲金山坂

八岐より

志と東へ

廿七丁十又文

▲月波▲きませ

ちくまは

塩あざむ

い村回へ

一りま廿十六文

▲下づつ▲移づる

▲平塚▲いませ橋

山石村回へ

一り七丁廿四文

▲尾らごこの乃き

小回井の

十八まがりなる尾山

いゆの坂中系やあ

▲いん金橋中峠廿七丁

▲法務村▲玄畑村

▲中村

▲志と東へ

一り十丁三十八文

▲新田村大石畑

小石畑を峠へ

二丁六七同の系

大石畑切ぬき居之

▲砂系村▲より波

▲とこ橋▲四の村

▲尾らごこの乃き山へ

あつとけく

一り十丁廿四文

これより

百十七丁メ

▲けきろの

おいりけより

かろるを

根より

さる峠

大お石乃た

▲中系▲素原

いちり山

三三

やくば村

三三三

おむ橋山

けりては

廻り市の河村

ちどろ峠

あつとけ

馬場大池あり

たつら姥捨山

いん金橋

七拾四文

一本本け

丹波

七拾四文

一本本け



おひしけけ取より

右に戸花り長光寺道

江戸系もけ取居り道

▲去の祿▲みろく▲喜平河村

▲芝さ丸▲ふせたり▲南むら

▲小原村け遠を合致相と云

西条山と云

丹波書より長光寺町へ

一り十二丁 二十六文

今と川をも武十丁斗から

月と後る前何ヶ取もあり

船後一ニテ西船丸本取か

つし一ふ祿をり退りけり

け遠を川中橋と云り古武場

大あつ川と巡ると小市の渡船

▲吹上村町名及公親を地蔵

町長光寺門前町あり

大門の奉堂まで四半の安石

大奉願とあまでつたり

二重門南向き寺中四十六軒

樓門文殊奉四天皇大勧進

別當天台宗御系印あり

奉堂東西十八間南水世間

三方に面きと檜六ヶ所あり

奉堂三國傳来阿弥陀佛

長光長祐跡室のまへ三人

の御親毎給用帳あり

奉堂へ去是より上り戒壇と



幸多の下家(じ)でそくらぐり  
● 後佛(ごぶつ)をととのへ三篇(さんぺん)の元(もと)の所(ところ)  
● けあより戸(と)隠(かく)山(やま)の(り)り  
● 京(きやう)への十(じゆ)又(また)り

● 江戸(えど)へ又(また)十九(じゆ)り道(みち)法(ほう)付(つ)

● 善光寺(ぜんくわうじ)の丹波(たんぱ)忠(ちゆう)一(いつ)り十二(じふに)

● 丹波(たんぱ)橋(はし)のや(り)路(ぢ)へ三(さん)り

● 丹波(たんぱ)橋(はし)のや(り)路(ぢ)へ三(さん)り 七十三(しちじゆ)文(ぶん)

● 丹波(たんぱ)橋(はし)のや(り)路(ぢ)へ三(さん)り

● 江戸(えど)及(およ)びへらくま川(がは)の(り)り

● 八代(やち)の(り)り 二十(にじゆ)文(ぶん)

● 小(こ)島(しま)の(り)り 二十(にじゆ)文(ぶん)

● 江戸(えど)倉(くら)の(り)り 二十(にじゆ)文(ぶん)

江戸(えど)上下(じやうげ)五(ご)日(にち)の(り)り

● 江戸(えど)の(り)り 二十(にじゆ)文(ぶん)

● 江戸(えど)の(り)り 二十(にじゆ)文(ぶん)

● 江戸(えど)の(り)り 二十(にじゆ)文(ぶん)

● 江戸(えど)の(り)り 二十(にじゆ)文(ぶん)

● 江戸(えど)の(り)り 二十(にじゆ)文(ぶん)

● 江戸(えど)の(り)り 二十(にじゆ)文(ぶん)

● 江戸(えど)の(り)り 二十(にじゆ)文(ぶん)

● 江戸(えど)の(り)り 二十(にじゆ)文(ぶん)

● 江戸(えど)の(り)り 二十(にじゆ)文(ぶん)

● 江戸(えど)の(り)り 二十(にじゆ)文(ぶん)

● 江戸(えど)の(り)り 二十(にじゆ)文(ぶん)

● 江戸(えど)の(り)り 二十(にじゆ)文(ぶん)

● 江戸(えど)の(り)り 二十(にじゆ)文(ぶん)







七万貳千石松平左京右衛門

▲出づる ▲中一返

左へまの指を右らぶる

▲勝込

倉敷村のまの指を二リ廿又

日光山の左より右に中記下の段

▲いづれ

へからる川に中ま

新宿のまの指を

ニリ 三指又

▲石川村

本宿のまの指を

ニリ廿五下又廿四又

▲石川村 ▲橋田村

▲うらな

▲玉むら

▲とま

▲と新川の

▲たむ

▲たけ川

▲たむ

▲たむ

▲小山川 ▲あむ村

源谷のまの指を

ニリ廿下又廿又

▲新宿 ▲新宿

徳谷のまの指を

四リ八下 八十又

▲まがでら ▲久下村

▲吹上村 ▲箕田村

鴨の真のまの指を

一リ廿下 二十六又

左りまたて林日光を

▲のりま ▲えこの

▲川がらげを

三十下 拾九又

▲八木

▲川

▲さ

▲たふ

▲とみど

▲とら

▲かつ

▲あ

▲さ

▲ぬま

▲の

▲た

▲い

▲は



▲南村 ▲本村  
 上ヶ尾の太くま、  
 ニリ八丁 三十九文  
 ▲むろろ所 ▲まき所村  
 大宮のうらまへ  
 一リ十丁 式十六文  
 ▲氷河の神  
 社願 三百石  
 大宮が系 二十丁  
 中程の系を  
 浦和のうらまへ  
 一リ十丁 式十七文  
 ▲あまの村  
 和羅びのうらまへ  
 今市  
 日光山  
 中世寺  
 日光山  
 今市  
 大さじ  
 津次郎  
 野  
 うつのは  
 さいの  
 谷ば  
 小の  
 いも  
 小  
 下総  
 下時

ニリ八丁 口括又文  
 ▲戸田 合と川子  
 ▲志村  
 板橋をどへ  
 ニリ 口括七文  
 ▲とがも  
 ▲はのせいがらば  
 ▲本ごう ▲めんご  
 ▲とどめいんつけ  
 江戸日本橋  
 ▲松 系 式百十丁  
 ▲立 山 百丁六丁  
 ▲ゆどの山 百サヌリ  
 ▲出だ内 百二十丁  
 ▲松 係 九十七丁  
 ▲この山 七十七丁  
 今市  
 日光山  
 中世寺  
 日光山  
 今市  
 大さじ  
 津次郎  
 野  
 うつのは  
 さいの  
 谷ば  
 小の  
 いも  
 小  
 下総  
 下時



藏版目錄

西國順禮道中記 品々

同繪圖 品々

秩父阪東順禮記

四國八十八ヶ所道中記

伊勢系宮道中記 品々

大和巡り道中記圖

高野山案内記

新川寺縁起圖 品々

文化三年

乙寅正月改板

書樹堂

紀陽粉河

大坂屋長三郎

天正六年正月

和名長尾郡作人

新川寺

28-757



